

平成 31・令和元年度 群馬県立館林美術館年報

2019.4 - 2020.3



Gunma Museum of Art,
Tatebayashi

群馬県立館林美術館

目次

・展覧会 p.3

- A 展覧会一覧 _____ p.3
(工事休館について _____ p.3)
- B 企画展示記録 _____ p.4
- C コレクション展示記録 _____ p.30
- D 彫刻家のアトリエ(別館)展示記録 _____ p.34
- E 入館者数一覧表 _____ p.35

・教育普及 p.36

- A 講演会、アーティスト・トーク _____ p.36
- B 作品解説会、ギャラリートーク、レクチャー、たてび☆キッズウォーク、ポンポン・ツアー _____ p.37
- C ワークショップ _____ p.38
- D 創作体験コーナー みんなのアトリエ _____ p.39
- E たてび☆びじゅつ部 _____ p.39
- F コンサート、読み聞かせ・その他イベント _____ p.40
- G 学校連携その他 _____ p.42
- H 地域に開かれた美術館づくり _____ p.46
- I 刊行物 _____ p.47
- J ボランティア _____ p.48
- K 友の会 _____ p.49

・所蔵資料 p.50

- A 美術作品 _____ p.50
- B 図書資料その他 _____ p.58

・関係者および職員名簿 p.59

展覧会

A 展覧会一覧

(1)企画展示

展示名	会期	会場	内容
熊谷守一 いのちを見つめて	4/20～6/23	展示室2～4	明確な輪郭線と色面による「モリカズ様式」で知られる、岐阜県出身の熊谷守一を、初期から晩年までの約160点の作品により紹介した。
みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち	7/13～9/16	展示室2～4	見ること、感じること、不思議を問い、それを絵画空間で表すための独自の表現を追求している7人の現代作家を紹介した。
ピカソ展ーゲルニカ[タピスリ]をめぐって	10/5～12/8	展示室2～4	パブロ・ピカソ《ゲルニカ》を原画としほぼ同寸大で織られたタピスリ(タペストリー)を中心に、ピカソの絵画や版画の他、関連作品、資料、約110点を通して、《ゲルニカ》にまつわる様々な側面に着目した。

(2)コレクション展示

展示名	会期	会場	内容
近現代の彫刻Ⅰ	4/20～6/23	展示室1	フランソワ・ボンボン、フェルナンド・ボテロ、バーバラ・ヘップワースなどの近現代彫刻を展示した。
近現代の彫刻Ⅱ	7/13～9/16	展示室4	フランソワ・ボンボン、ヘンリー・ムーア、鶴岡政男、森亮太、林茂樹などの近現代彫刻を展示した。
近現代の彫刻Ⅲ	10/5～12/8	展示室1	フランソワ・ボンボン、ヘンリー・ムーア、和南城孝志、岡本健彦などの近現代彫刻を展示した。

工事休館について

ESCO活用省エネルギー事業のため、下記の通り、空調改修工事を行い、全館休館した。

設備改修工事期間:令和元年9月5日～令和2年1月31日

全館休館期間:令和元年12月9日～令和2年3月31日

工事内容:空調熱源・冷熱搬送設備の更新、中央監視装置(EMS)の更新、照明設備(館内照明の一部および展示室2～4のスポットライト)のLED化・人感センサー取り付け

*ESCO活用省エネルギー委託事業期間は、令和2年4月1日より令和17年3月31日まで。

1. 熊谷守一 いのちを見つめて

会期 平成31年4月20日(土)～令和元年6月23日(日)
 会場 展示室2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 特別協力 柳ヶ瀬画廊
 企画協力 株式会社アートキッチン
 観覧料 一般820(650)円 大高生410(320)円
 ()内は、20名以上の団体割引料金

熊谷守一(1880-1977)は、明治から昭和の時代を生き、世代を超えて多くの人に愛されている画家である。

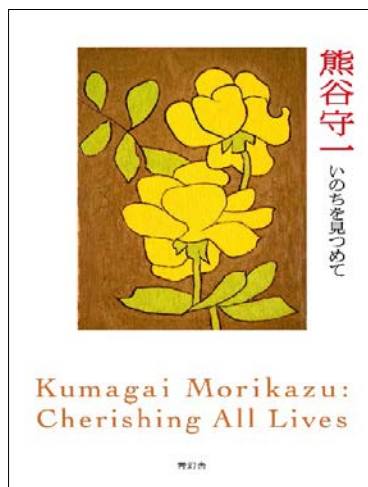
岐阜県恵那郡付知村、現在の中津川市付知町に生まれた守一は、物心がつく頃まで山深い自然豊かな環境で育った。子供の頃から、絵を描くことが好きだった彼は、東京美術学校(現 東京藝術大学)に進み、西洋画科のアカデミックな指導を受ける。29歳で文展の褒状を受けるなど、画力を確かなものにし、画壇からも高く評価された。

平明かつ鮮やかな色面による守一の作品は、一目見てその特徴を掴むことができ、「モリカズ様式」と名付けられた。今では、「熊谷守一(クマガイモリカズ)」と聞くと人々がよく思い浮かべる様式として知られているが、実は、彼が70歳を過ぎて開花させた様式である。青年期より50歳頃までは荒い筆遣いの作風が続き、その後対象の形態をシンプルな輪郭線として塗り残す作風へと向かう。花、猫、鳥、虫などの「いのち」ある小さきものを真摯に見つめて描かれた守一の作品は、愛らしさを讃え、多くの人を魅了することとなった。

本展では、初期から晩年まで守一の画業の全貌を辿るとともに、日本画や書、素描も紹介し、その豊かな作品世界に迫った。約160点の作品を通して、他に類をみない境地に達した画家の魅力を探る貴重な機会となった。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

*No.は図録番号のため、すべての番号が記載されているわけではない。

第1章 画家・熊谷守一の誕生

No. *	作品名	制作年	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)	所蔵先
1	裸体人物	1902	明治35	油彩・カンヴァス	80.0×60.0	東京藝術大学
2	腰かけた女	1903	明治36	油彩・カンヴァス	43.0×33.7	岐阜県美術館
4	婦人半身像	1905	明治38	油彩・カンヴァス	45.6×33.3	岐阜県美術館
5	蠟燭(ローソク)	1909	明治42	油彩・カンヴァス	60.7×45.5	岐阜県美術館
6	ランプ	1910	明治43	油彩・カンヴァス	45.5×33.5	
6	守一からの手紙					
-参考1						
6	守一還暦祝いの写真					
-参考2						
6	第27回二科美術展覧会 絵葉書					
-参考3						
6	第27回二科美術展覧会 招待券					
-参考4						
7	林文右衛門像	1910頃	明治43頃	油彩・カンヴァス	40.5×32.5	
8	父の像	1910～15	明治43～大正4	油彩・カンヴァス	44.0×37.0	岐阜市
9	赤城の雪	1916	大正5	油彩・カンヴァス	24.5×33.8	岐阜県美術館
10	ポプラ並木	1919	大正8	油彩・板	24.0×19.0	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
11	松林	1920～30	大正9～昭和5	油彩・カンヴァス	53.2×45.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
12	松林	1928	昭和3	油彩・カンヴァス	45.2×38.0	岐阜県美術館
13	赤牡丹	1929	昭和4	油彩・カンヴァス	27.0×41.0	
14	男の顔	1930頃	昭和5頃	油彩・板	32.9×23.8	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
15	あやめ	1930～40	昭和5～15	油彩・板	23.8×33.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
16	秋風景	1930～40	昭和5～15	油彩・板	33.4×24.3	
17	裸婦	1930～40	昭和5～15	油彩・板	14.7×9.7	
18	立つ裸婦	1930頃	昭和5頃	油彩・板	33.1×23.8	
19	裸婦	1930～40	昭和5～15	油彩・板	32.9×23.7	
20	裸婦	1930～40	昭和5～15	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
23	大島	1935	昭和10	油彩・板	24.0×33.0	埼玉県立近代美術館
24	裸婦	1936頃	昭和11頃	油彩・板	18.0×14.0	東京藝術大学

第2章 「モリカズ様式」へ

25	最上川上流	1936	昭和11	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 かみや美術館
27	富士	1937	昭和12	油彩・板	24.0×33.0	
28	少女	1938	昭和13	油彩・板	33.4×24.2	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
29	顔	1940頃	昭和15頃	油彩・板	33.0×24.0	
30	安良里港	1940	昭和15	油彩・板	27.3×45.5	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
31	伊豆堂ヶ島	1940	昭和15	油彩・板	24.3×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
32	裸婦	1943頃	昭和18頃	油彩・板	33.0×23.8	
33	海	1947	昭和22	油彩・板	23.9×32.6	
34	椿	1948	昭和23	油彩・板	33.3×23.6	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
35	風景(蓼科高原大池)	1948頃	昭和23頃	油彩・板	10.5×15.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
36	熱海	1948	昭和23	油彩・板	24.3×33.4	天童市美術館 寄託
37	横の裸女(海辺)	1950	昭和25	油彩・板	24.2×33.0	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
38	磯	1952	昭和27	油彩・板	23.6×33.2	久留米市美術館

No.	作品名	制作年	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)	所蔵先
40	土饅頭	1954	昭和29	油彩・板	31.6×40.9	北九州市立美術館
41	御嶽	1954	昭和29	油彩・板	24.2×33.3	岐阜県美術館
42	紅葉	1954	昭和29	油彩・板	23.9×33.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
43	草人	1955	昭和30	油彩・板	31.0×40.0	天童市美術館 寄託
44	ヤキバノカエリ	1956	昭和31	油彩・カンヴァス	50.0×60.5	岐阜県美術館
45	五色沼	1956頃	昭和31頃	油彩・板	23.7×33.0	天童市美術館 寄託
46	玩具	1957	昭和32	油彩・板	24.3×33.4	
48	裸	1958	昭和33	油彩・板	33.2×24.1	
49	朝日	1958	昭和33	油彩・カンヴァス	33.4×24.3	岐阜市
50	富士山	1958	昭和33	油彩・板	24.3×33.3	天童市美術館 寄託

第3章 いのちを描く

花

51	牡丹	1952	昭和27	油彩・板	24.3×33.4	
52	山茶花	1956	昭和31	油彩・板	33.0×24.1	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
54	かたばみにいぬのふぐり	1958	昭和33	油彩・板	24.2×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
55	茶の花	1958	昭和33	油彩・板	24.3×33.4	
56	椿	1959	昭和34	油彩・カンヴァス	3.3×4.0	
57	つばきの花	1959	昭和34	油彩・板	24.3×33.4	
58	つつじ	1959	昭和34	油彩・板	32.5×23.5	婦人之友社
59	梅雨(露)	1959	昭和34	油彩・カンヴァス	32.0×41.9	天童市美術館 寄託
60	山椿	1960	昭和35	油彩・板	33.0×23.7	名古屋市美術館
61	百日草	1960	昭和35	油彩・板	24.2×33.3	埼玉県立近代美術館
62	きのこ	1961	昭和36	油彩・板	24.3×33.4	
63	ひまわり	1962	昭和37	油彩・板	33.2×24.0	天童市美術館 寄託
64	水仙	1963	昭和38	油彩・板	33.4×24.2	
65	鴨跖草	1964	昭和39	油彩・板	33.3×24.2	住友コレクション 泉屋博古館 分館
66	たんぽぽとみつ葉	1965	昭和40	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 泉美術館
67	あやめ	1967	昭和42	油彩・板	24.0×33.0	
68	あさがを	1967	昭和42	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
69	芍薬	1968	昭和43	油彩・板	23.8×33.2	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
70	為朝百合	1969	昭和44	油彩・板	24.3×33.4	

いきもの

71	かまきりとひがん花	1958	昭和33	油彩・板	32.5×23.5	婦人之友社
73	げんげに虻	1959	昭和34	油彩・板	24.3×33.3	佐助文庫準備室
74	蟬	1961	昭和36	油彩・板	22.0×15.0	婦人之友社
75	ほたるぶくろ	1961	昭和36	油彩・板	33.2×24.1	静岡県立美術館
76	つとぢに揚羽蝶	1962	昭和37	油彩・板	15.7×22.8	
77	鬼百合に揚羽蝶	1959	昭和34	油彩・カンヴァスに 紙	45.8×35.4	東京国立近代美術館
78	夏水仙に蝶	1965	昭和40	油彩・板	33.4×24.3	
79	豆に蟻	1958	昭和33	油彩・板	24.3×33.4	
80	蟻	1970	昭和45	油彩・板	24.0×33.0	
83	大巖寺の鶴の森	1947	昭和22	油彩・板	33.0×21.0	天童市美術館

No.	作品名	制作年	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)	所蔵先
84	母鶏	1954	昭和29	油彩・板	24.0×33.2	岐阜県美術館
85	鳥と椿	1962	昭和37	油彩・板	24.0×33.0	
86	若葉	1965	昭和40	油彩・板	23.3×32.5	
87	はぜ紅葉	1965	昭和40	油彩・カンヴァス	31.8×39.3	佐助文庫準備室
88	きんけい鳥	1966	昭和41	油彩・カンヴァス	61.0×45.5	神奈川県立近代美術館
89	黒つぐみ	1966	昭和41	油彩・板	33.0×24.0	
90	椿	1966	昭和41	油彩・板	24.0×33.0	
91	野良仔猫	1955	昭和30	油彩・板	23.7×33.2	
92	茄子と仔猫	1961	昭和36	油彩・板	23.8×33.0	
93	くろ猫	1962	昭和37	油彩・板	24.1×33.2	
94	うさぎ	1962	昭和37	油彩・板	22.0×15.0	婦人之友社
95	兎	1965	昭和40	油彩・紙	35.5×49.5	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
96	金魚	1940頃	昭和15頃	油彩・板	21.2×33.4	天童市美術館 村山祐太郎コレクション
97	蝦蟇	1940～50	昭和15～25	油彩・板	12.6×20.4	中津川市
98	稚魚	1958	昭和33	油彩・板	24.2×33.3	天童市美術館
99	亀	1958	昭和33	油彩・板	24.3×33.4	
100	石亀	1958	昭和33	油彩・板	24.2×33.4	
101	稚魚群遊之図	1960	昭和35	油彩・板	24.3×33.3	天童市美術館

第4章 80歳を超えて

102	夏の月	1961	昭和36	油彩・板	33.3×23.8	埼玉県立近代美術館
104	童子遊魚の図	1961	昭和36	油彩・板	24.3×33.4	
105	紅葉	1961	昭和36	油彩・板	24.3×33.3	
106	暈の裸婦	1962	昭和37	油彩・カンヴァス	39.5×52.0	東京国立近代美術館
107	夕月	1962	昭和37	油彩・カンヴァス	15.7×22.4	
108	瓜	1964	昭和39	油彩・板	24.0×33.2	公益財団法人 ひろしま美術館
109	柚	1966	昭和41	油彩・板	31.8×40.8	
110	あやめ	1967	昭和42	油彩・板	33.4×24.3	中津川市
111	茄子	1968	昭和43	油彩・板	24.3×33.4	公益財団法人 泉美術館
112	林檎	1968	昭和43	油彩・板	15.8×22.6	
113	山ぶどうを	1969	昭和44	油彩・板	15.8×22.7	
114	宵月	1966	昭和41	油彩・板	33.2×24.0	佐助文庫準備室
115	朝のはぢまり	1969	昭和44	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館
116	夕映	1970	昭和45	油彩・板	24.3×33.4	岐阜県美術館
117	石亀	1970	昭和45	油彩・板	15.9×22.7	
118	新神楽	1970	昭和45	油彩・板	24.2×33.5	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
119	揚羽蝶に百日草	1971	昭和46	油彩・板	33.4×24.3	
120	薔薇	1971	昭和46	油彩・板	33.5×24.1	公益財団法人 ひろしま美術館
121	野草	1972	昭和47	油彩・板	24.0×33.5	住友コレクション 泉屋博古館 分館
122	熊蜂	1972	昭和47	油彩・板	22.7×15.8	
123	朝日	1972	昭和47	油彩・板	33.5×24.3	公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
124	アンセリウム	1973	昭和48	油彩・板	33.2×24.0	天童市美術館 寄託
125	牛	1973	昭和48	油彩・板	22.2×15.3	婦人之友社
126	つゆ草	1973	昭和48	油彩・板	22.6×15.8	

No.	作品名	制作年	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)	所蔵先
127	尾長にいちじく	1974	昭和49	油彩・板	33.4×24.3	公益財団法人 ウッドワン美術館
128	あぢさい	1975	昭和50	油彩・板	24.0×33.2	
129	猫	1960頃	昭和35頃	紙本墨画淡彩	42.2×54.2	
130	猫	1955～60	昭和30～35	紙本墨画淡彩	41.6×50.6	
131	野菜	1960頃	昭和35頃	紙本墨画淡彩	67.7×41.0	
132	橐吾に蝦蟆	1960	昭和35	紙本墨画淡彩	45.3×60.7	

第5章 守一とともにあるもの 日本画・書・素描・遺品

133	薔薇に揚羽蝶	年代不詳		紙本墨画淡彩	53.0×45.4	
134	螻蛄	年代不詳		紙本墨画淡彩	35.0×39.0	
135	さつまいも	年代不詳		紙本墨画淡彩	44.8×58.3	
136	百日草	年代不詳		紙本墨画淡彩	50.5×39.5	
137	赤蝦蟇	1976	昭和51	紙本墨画淡彩	50.5×61.0	
138	ちぞう	1976	昭和51	紙本墨画	68.9×45.7	
139	日輪	1976	昭和51	紙本朱墨画	45.5×38.0	
140	南無阿彌陀佛	年代不詳		紙本墨書	117.1×33.9	
141	五風十雨	1976	昭和51	紙本墨書	64.9×33.6	
142	ぐるりと…七福神…	1974	昭和49	紙本墨書	40.8×31.8	
143	龍吟水	1974	昭和49	紙本墨書	32.0×67.2	
144	不詳(茸)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
145	不詳(フキ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
146	不詳(豆柿)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.8×17.1	世田谷美術館
147	不詳(ノビルノ実)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.0×22.8	世田谷美術館
148	不詳(とんぼ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.8×17.3	世田谷美術館
149	不詳(ウ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.7	世田谷美術館
150	不詳(カタツムリ、菊スイ、白い蝶、蝶)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.7×17.0	世田谷美術館
151	不詳(花、クモ、アブ、カイコガ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.7×17.0	世田谷美術館
152	不詳(カブト虫、木の子)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.7×17.1	世田谷美術館
153	不詳(ハイ、カナブンブン、カウモリ、米ツキ虫)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.8×17.2	世田谷美術館
154	不詳(ひきがえる)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.2×22.8	世田谷美術館
155	不詳(カエル)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.2×22.7	世田谷美術館
156	不詳(金魚、睡蓮、蟻、蟋蟀)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.8×17.1	世田谷美術館
157	不詳(フナ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
158	不詳(ネズミ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	12.8×17.2	世田谷美術館
159	不詳(トラ)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
160	不詳(裸)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
161	不詳(足)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	17.1×22.8	世田谷美術館
162	不詳(壺、王将、釘抜き、金槌)	1955頃	昭和30頃	鉛筆・紙	22.8×17.2	世田谷美術館
164	土人形(金太郎)					公益財団法人 熊谷守一つけち記念館
165	道具箱					公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
166	道具箱の中身					公益財団法人 熊谷守一つけち記念館 寄託
167	日本画用の硯					
168	画材					
169	画材					
170	画材					
171	赤鉛筆、黒鉛筆、ナイフ 二種					
172	木炭、ヘラ 二種					
173	油彩画用の板 二種(6号、8号)					

◎印刷物・会場作成物

・図録 A5判変形(21.0×15.2cm) 244頁

内容:

目次

はじめに(森山秀子)

図版

第1章 画家・熊谷守一の誕生

風景を見つめる眼差し—守一の風景画について(野澤広紀)

守一と裸婦(森 智志)

第2章 「モリカズ様式」へ

守一作品の“そっくりさん”(森 智志)

第3章 いのちを描く

守一の日常—1960年代以降の資料をもとに(市川瑛子)

へたも絵のうち(泰井 良)

第4章 八十歳を超えて

熊谷守一の見つめた光、そして音(三井麻央)

守一と青木繁—同時代を生きたふたつの個性(森山秀子)

第5章 守一とともにあるもの 日本画・書・素描・遺品

守一素描にみる交友関係(市川瑛子)

画家がみつめたもの(市川瑛子)

和の空間に佇む(林 綾野)

年譜

主要文献

作品リスト

著者:熊谷守一

執筆・編集:

野澤広紀(群馬県立館林美術館学芸員)

泰井 良(静岡県立美術館学芸員)

三井麻央(岡山県立美術館学芸員)

森山秀子(久留米市美術館副館長兼学芸課長)

森 智志(久留米市美術館学芸員)

市川瑛子(キュレーター、柳ヶ瀬画廊・良文庫 取締役)

林 綾野(アートキッチン)

アートディレクション:高橋歩

デザイン:伊藤力丸

編集:廣瀬歩、櫻澤知子

印刷・製本:株式会社山田写真製版所

発行日:2019年4月25日

発行:株式会社青幻舎

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 観音折り、18.2×18.2cm

制作:株式会社erA

・パネル

挨拶1枚、写真パネル3枚(肖像写真、東京美術学校卒業記念写真、画室で猫を抱く熊谷守一)、章解説5枚、コラムパネル2枚、年表、イラストパネル(熊谷邸の家と庭園)

・会場配布用作品リスト

◎主要関連記事

(長文記事は末尾に*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

[新聞等]

・朝日ぐんま

「企画展「熊谷守一 いのちを見つめて」「いのち」ある小さきものを真摯に見つめた守一」〈文化紀行〉*(学芸員 野澤広紀)

・上毛新聞

4.11

「熊谷守一・いのちを見つめて」〈美術館・博物館〉

5.14

「企画展「熊谷守一 いのちを見つめて」より①《ランプ》」〈アートを愉しむ〉*

5.15

「企画展「熊谷守一 いのちを見つめて」より②《つゞちに揚羽蝶》」〈アートを愉しむ〉*

5.16

「企画展「熊谷守一 いのちをみつめて」より③《くろ猫》」〈アートを愉しむ〉*

「熊谷守一展 小さな命 鮮やかに」〈地域〉*

5.17

「企画展「熊谷守一 いのちを見つめて」より④《椿》」〈アートを愉しむ〉*

5.18

「企画展「熊谷守一 いのちを見つめて」より⑤《兎》」〈アートを愉しむ〉*

6.4

「館林美術館で熊谷守一展 23日まで 小さな命 鮮明に描写 独自「様式」至る全体像」*

・上毛新聞 シャトル

4.18

「県立館林美術館「熊谷守一 いのちを見つめて」真摯に描き様式開花」〈たてびアート散歩〉*(学芸員 野澤広紀)

・JOMO TAKATAI

5.17

「鮮やかな色合い楽しむ 館林美術館で熊谷守一展」〈アート〉

・公明新聞

4.24

「熊谷守一 2つの展覧会」

・東京新聞

5.19

[定期刊行物]

・月刊アートコレクターズ

5月号

「熊谷守一のちを見つめて」〈今月の展覧会ガイド〉

・芸術新潮

4月号

「熊谷守一のちをみつめて」〈展覧会巡回情報〉

・月刊 書道界

5月号

「熊谷守一のちを見つめて」*

・博物館研究

Vol.54 No.5

「群馬県立館林美術館」〈展覧会(美術)〉

・月刊美術

5月号

「熊谷守一のちを見つめて」〈展覧会情報〉

・美術の窓

5月

「熊谷守一のちを見つめて」〈話題の展覧会 美術館〉

・マンスリー とーぶ

4月号

「熊谷守一のちを見つめて ～群馬県立館林美術館」〈マンスリーセ

レクション〉

・月刊 MOE

6月号

「熊谷守一のちを見つめて」〈今月の展覧会〉

・raifu

4月号、5月号、6月号

「群馬県立館林美術館」〈Art&StageEvent〉

◎放送

[ラジオ]

・FM桐生

4.18

「企画展示「熊谷守一のちを見つめて」のお知らせ」〈ぐんまいいきき情報〉

5.16

「企画展示「熊谷守一のちを見つめて」記念講演会のお知らせ」〈ぐんまいいきき情報〉

5.23

「たてび☆びじゅつ部「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」〈ぐんまいいきき情報〉

・FM太郎

4.18

「企画展示「熊谷守一のちを見つめて」のお知らせ」〈ぐんまいいきき情報〉

[テレビ]

・群馬テレビ

5.13

「ポチッとあすナビ 催し物情報『熊谷守一のちを見つめて』」〈ニュースeye8〉

6.14

「企画展 熊谷守一のちを見つめて」〈ニュースジャスト6〉

6.14

「企画展 熊谷守一のちを見つめて」〈ニュースジャスト6〉

◎関連事業

・記念講演会

5.18

「熊谷守一を見つめて」

講師:池田良平氏(天童市美術館館長)

・たてび☆びじゅつ部

5.11、5.26、6.9

「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」

・学芸員による作品解説会

4.26、5.25、6.8

・たてび☆キッズウォーク

4.27、5.25、6.15



展示室2



展示室3



展示室4



展示室4

2. みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち

会期 令和元年7月13日(土) ~ 9月16日(月・祝)

会場 展示室2、3、4

主催 群馬県立館林美術館

助成 芸術文化振興基金

協力 アートフロントギャラリー

ギャラリーARTG

小山登美夫ギャラリー

ANOMALY

Gallery Nomart

NEM

MA2ギャラリー

観覧料 一般820円(650円)、大高生410円(320円)

()内は20名以上の団体割引料金

日常の自然や風景、身の周りの周りにあるものから受けとめたものを絵画表現とする、この見ることと描くことの間を橋渡しするのは何だろうか。本展覧会では、見ること、感じることの神秘を問い、それを絵画空間でのみ表しうる独自の表現へと深め続けている7人の作家を紹介した。

樹木のある空間を見つめ、紙の裏側から墨を滲ませてその濃

淡により描画し、水墨画の伝統から新たな可能性を引き出す浅見貴子。柔らかい布、硬質な磁器など日常的なモチーフを取り巻く光に注目し、ものの存在を質感でとらえ、描き出す伊庭靖子。気配や湿り気、植物の香りなど、ふとしたできごとを五感で受け止めてドローイングへとつなげる金田実生。樹木や風景を描画した上を絵の具で薄く覆い、画面のレイヤーを通じて、イリュージョンと物質感を往還する児玉靖枝。あるとき、ある場所の光や風をはらむ海や空や街路の情景を、かけがえのないものとしてスケッチし、線と形と色相の響き合いへと置換する津上みゆき。樹々の間にのぞく果てしない空を、感覚の上に引き寄せる樹木の複雑な構造を通して、画面上に生じる「空間」の不思議を問う日高理恵子。天空や水中など、大気や水に満たされた大きな広がりや連想させる幻想的な世界を、繊細かつ深遠な色調によって作り出す水村綾子である。

会期中は、児玉靖枝、伊庭靖子、浅見貴子、津上みゆき、金田実生、日高理恵子ら出品作家によるアーティスト・トークをはじめ、水村綾子によるワークショップ「雑誌や写真で簡単抽象画風インテリア作り」、群馬県立女子大学奥西ゼミによるワークショップ「キラキラ☆ビー玉万華鏡を作ろう!」など、数多くの関連事業を開催した。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

浅見貴子

cat.no.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横 (cm)	所蔵 (表記のないものはすべて作者蔵)
1	精 2000.1	2000	墨、顔料、裏箔、膠、樹脂膠・雲肌麻紙	265×366	ムクゲ自然公園 森の美術館
2	精 2001.1	2001	墨、顔料、裏箔、銀泥、膠、樹脂膠・雲肌麻紙	244×190	
3	精 2003	2003	墨、顔料、膠、樹脂膠・雲肌麻紙	244×190	
4	梅に楓図	2009	墨、顔料、樹脂膠・白麻紙	265×200	東京国立近代美術館
5	梅 1101	2011/2014	墨、顔料、樹脂膠・雲肌麻紙	235×280	
6	変容	2017	墨、顔料、樹脂膠・白麻紙	265×206	
7	梅、6月(仮題)	2019	墨、顔料、樹脂膠・白麻紙	265×200	

伊庭靖子

1	Untitled	1998	油彩・カンヴァス	183×393	群馬県立館林美術館
2	Untitled	2003	油彩・カンヴァス	120×160	群馬県立館林美術館
3	Untitled	2003	油彩・カンヴァス	120×160	大原美術館
4	Untitled	2009	油彩・カンヴァス	90×110	神奈川県立近代美術館
5	Untitled	2009	油彩・カンヴァス	70×70	ガラパゴス氏
6	Untitled	2009	油彩・カンヴァス	70×70	J.Suzuki氏
7	Untitled	2009	油彩・カンヴァス	70×70	個人蔵
8	Untitled 2012-07	2012	油彩・カンヴァス	194.5×97	eN arts collection
9	grain #2018-2	2018	シルクスクリーン・紙	76.5×57	
10	grain #2019-2	2019	シルクスクリーン・紙	76.5×57	
11	grain #2019-4	2019	シルクスクリーン・紙	76.5×57	
12	grain #2019-6	2019	シルクスクリーン・紙	76.5×57	

金田実生

1	空とバラの31日	2000-2019	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	14冊子、各32×22より	
1-1	空とバラの32日	2000	水溶性クレヨン、鉛筆・紙	25画面、各32×22	
1-2	空とバラの30日	2000	水溶性クレヨン、鉛筆・紙	20画面、各32×22	
1-3	空とバラの31日	2001	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	14画面、各32×22	
1-4	空とバラの31日	2002	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	16画面、各32×22	
1-5	空とバラの31日	2002	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	16画面、各32×22	
1-6	空とバラの32日	2003	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	14画面、各32×22	
1-7	空とバラの31日	2004	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	19画面、各32×22	
1-8	空とバラの31日	2008	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	13画面、各32×22	
1-9	空とバラの14日	2008	水溶性クレヨン、鉛筆・紙	7画面、各32×22	
1-10	空とバラの29日	2010	水溶性クレヨン、鉛筆・紙	16画面、各32×22	
1-11	空とバラの31日	2014	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	28画面、各32×22	
1-12	空とバラの31日	2015	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	20画面、各32×22	
1-13	空とバラの31日	2016	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	26画面、各32×22	
1-14	空とバラの31日	2017	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	25画面、各32×22	
1-15	空とバラの31日	2019	水溶性クレヨン、鉛筆、水彩・紙	25画面、各32×22	
	空とバラの31日(2000-2017年) より スライドショー				
2	冬の呼吸	2004	水溶性クレヨン、鉛筆・紙	155×174	群馬県立館林美術館
3	夜が少しづつ降りる	2005	油彩・紙	154×165	群馬県立館林美術館
4	足に力を入れる2	2013	油彩・紙	127×99	
5	犬のような夜	2016	油彩・紙	127×98.8	
6	優しい人	2017	油彩、色鉛筆・紙	127×98.8	

cat.no.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横 (cm)	所蔵 (表記のないものはすべて作者蔵)
7	夕暮れに昇る	2018	油彩・紙	127×98.3	
8	やりとりに見とれる	2018	木炭、油彩・紙	127×96.2	
9	おおらかな方向	2018	木炭・紙	127×96.2	
10	陰の衣ずれ	2019	油彩、木炭・紙	127×96.2	
11	ドローイング群 線を引く	2019	鉛筆、色鉛筆、ボールペン・紙	14×9～29.7×21より	
12	ドローイング群 夜と噴水	2019	水彩・紙	14×18～26×33より	
13	鎮まる夜	2018	油彩・カンヴァス	38×45	
14	うごめく夜	2019	油彩・紙	162×162	
15	薄い隔たり	2019	油彩・カンヴァス	112×145	

児玉靖枝

1	気配-萌黄	2007	油彩・カンヴァス	130.3×130.3	神奈川県立近代美術館
2	気配-萌黄	2007	油彩・カンヴァス	194×130.3	個人蔵
3	気配-萌え木	2008	油彩・カンヴァス	60.6×65.2	本田洋子氏
4	深韻-雨 二	2010	油彩・カンヴァス	194×130.3	神奈川県立近代美術館
5	深韻-雨 三	2010	油彩・カンヴァス	194×130.3	神奈川県立近代美術館
6	深韻-雨 四	2010	油彩・カンヴァス	194×130.3	神奈川県立近代美術館
7	深韻-風の棲処 十四	2012	油彩・カンヴァス	162×195	個人蔵
8	深韻-風の棲処 十五	2012	油彩・カンヴァス	145.5×145.5	個人蔵
9	花違え 六	2015	油彩・カンヴァス	162×112	
10	花違え 十五	2015	油彩・カンヴァス	45.5×45.5	
11	深韻-水の系譜(白)二十四	2016	油彩・カンヴァス	60.6×60.6	
12	深韻-水の系譜(霧雨)二十四	2017	油彩・カンヴァス	130.3×162	
13	深韻-水の系譜(霧雨)二十五	2017	油彩・カンヴァス	130.3×97 (2点組)	
14	深韻-水の系譜(白)三十九	2017	油彩・カンヴァス	80.3×80.3	
15	深韻-水の系譜(白)四十一	2017	油彩・カンヴァス	145.5×145.5	
16	Asyl 6	2018	油彩・カンヴァス	116.7×80.3	
17	Asyl 10	2018	油彩・カンヴァス	130.3×162	
18	Asyl 11	2018	油彩・カンヴァス	145.5×194	
19	Asyl X	2019	木炭・紙	76×108	
20	Asyl 14	2019	油彩・カンヴァス	130.3×162	

津上みゆき

1	View-13 thoughts, 2010-12	2010-2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス		
1-1	View-at 1:23 p.m., 10 Dec., 10-11	2011	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-2	View-at 1:30 p.m., 26 Jan., 11	2011	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-3	View-at 12 a.m., 26 Feb., 11	2011	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-4	View-at 2:05 p.m., 10 Mar., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-5	View-at 1:55 p.m., 17 Apr., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-6	View-at 1:52 p.m., 2 May, 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-7	View-at 10:45 a.m., 5 Jun., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	菊池林太郎氏
1-8	View-at 2:17 p.m., 14 Jul., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵

cat.no.	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横 (cm)	所蔵 (表記のないものはすべて作者蔵)
1-9	View-at 10:50 a.m., 14 Aug., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-10	View-about noon, 21 Sep., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-11	View-at 12:39 a.m., 14 Oct., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-12	View-at 11:40 a.m., 23 Nov., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
1-13	View-at 12:23 a.m., 11 Dec., 11-12	2012	顔料、アクリル、その他・カンヴァス	116.7×116.7	個人蔵
2	View-13 thoughts, 2010-12 スケッチ、エスキースより	2010-2012	鉛筆、色鉛筆、水彩、その他・紙		

日高理恵子

1	空との距離 I (ドローイング)	2002	鉛筆・紙	69×69	
2	空との距離 I	2002	岩絵具・麻紙	240×240	広島市現代美術館
3	空との距離 II (ドローイング)	2002	鉛筆、水彩・紙	69×69	
4	空との距離 II	2002	岩絵具・麻紙	240×240	新潟県立近代美術館・万代島美術館
5	空との距離 III (ドローイング)	2004	鉛筆・紙	57.7×57.7、43×43、48.8×48.8 (3点組)	
6	空との距離 III	2004	岩絵具・麻紙	200×200、150×150、170×170 (3点組)	群馬県立館林美術館
7	空との距離 IV (ドローイング)	2007	鉛筆、水彩・紙	57.7×57.7、43×43、48.8×48.8 (3点組)	ベルナール・ビュフェ美術館
8	空との距離 IV	2007	岩絵具・麻紙	200×200、150×150、170×170 (3点組)	ベルナール・ビュフェ美術館

水村綾子

1	swathe	2007	油彩・カンヴァス	194×194	
2	残響	2012	油彩・カンヴァス	162×194	
3	scale	2013	油彩・カンヴァス	162×162	
4	timbre	2013	油彩・カンヴァス	162×162	
5	pulse	2014	油彩・カンヴァス	181.8×227.3	
6	overtone	2016-2017	油彩・カンヴァス	145×145	
7	harmonic-1	2018	油彩・カンヴァス	91×91	
8	harmonic-2	2018	油彩・カンヴァス	91×91	
9	phrase	2019	油彩・カンヴァス	162×194	
10	note	2019	油彩・カンヴァス	194×194	
11	harmonic-3	2019	油彩・カンヴァス	194×194	
12	tone	2019	油彩・カンヴァス	194×194	

◎印刷物・会場作成物

・図録 A4判変型(22.5×29.7cm) 112頁

内容:

ごあいさつ

謝辞

目次

みつめるー見ることの不思議と向き合う作家たちー (松下由里)

図版

浅見貴子

伊庭靖子

金田実生

児玉靖枝

津上みゆき

日高理恵子

水村綾子

作家解説

作品リスト

執筆: 松下由里(群馬県立館林美術館学芸員)

編集: 松下由里、伊藤香織(群馬県立館林美術館学芸員)

デザイン・制作: erA

発行: 群馬県立館林美術館

発行日: 2019年7月13日

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 8面蛇腹折り、18.2×12.8cm

編集・発行: 群馬県立館林美術館

制作: 印象社

・パネル

挨拶1枚、作家紹介7枚、作家ステートメント7枚

・会場配布用作品リスト

◎主要関連記事

(長文記事は末尾に*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

[新聞等]

・朝日新聞

7.30

「見たものに 見えたもの 写実の上に 感覚重ねて 群馬県立館林美術館」*

・朝日ぐんま

7.12

「県立館林美術館」(夏休みは手作り体験会へ行こう!! ワークショップ特集)

9.6

「自然や風景を見て、感じた不思議を表現 7作家による約100点を展示 館林で16日まで」

・産経新聞

9.8

「みつめることの意味を考える」

・上毛新聞

7.24

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より①浅見貴子《梅に楓図》」(アートを愉しむ)

*7.25

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より②伊庭靖子《Untitled》」(アートを愉しむ) *

7.26

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より③日高理恵子《空との距離 I》」(アートを愉しむ) *

7.27

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より④水村綾子《note》」(アートを愉しむ) *

7.30

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より⑤児玉靖枝《深韻一雨》(部分)」(アートを愉しむ) *

7.31

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より⑥津上みゆき《View-at 1:23p.m., 10 Dec., 10-11》」(アートを愉しむ) *

8.1

「企画展「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」より⑦金田実生《鎮まる夜》」(アートを愉しむ) *

8.20

「重ねた色 音楽のように 水村さんら7人 企画展 県立館林美術館」(文化) *

・上毛新聞 シヤトル

6.20

「県立館林美術館「みつめるー見ることの不思議と向き合う作家たちー」 感覚の神秘問う7人」(たてびアート散歩) (学芸員 松下由里) *

8.8

「現代作家7人に注目 企画展示「みつめるー見ることの不思議と向き合う作家たちー」(展覧会) *

・東京新聞

9.2

「身近にあるもの 向き合い表現 7作家が絵画100点展示 館林美術館」*

・読売新聞

8.23

「みつめるー見ることの不思議と向き合う作家たちー」(イベントガイド)

・群馬よみうりビバ！アミーゴ

7.12

「企画展「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」〈県内〉

〔定期刊行物〕

・月刊アートコレクターズ

8月号

「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」〈今月の展覧会ガイド〉

・博物館研究

Vol.54 No.8

「群馬県立館林美術館」〈展覧会(美術)〉

・月刊美術

8月号

「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」〈特集 家族で、旅先で、アートを満喫 必見！夏の美術館 120【現代アート】〉

9月号

「みつめる 見ることの不思議と向き合う作家たち」〈展覧会情報〉

・raifu

7月号、8月号、9月号

「群馬県立館林美術館」〈Art & Stage Event〉

〔ラジオ〕

・FM桐生

7.18

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

8.13

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展アーティスト・トークのお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

9.3

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展作品解説会のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

・FM太郎

7.23

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

8.22

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展アーティスト・トークのお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

9.3

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展作品解説会のお知らせ」〈ぐんまいきいき情報〉

・エフエム群馬

7.17

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展のお知らせ」〈ぐんま情報トッピング〉

8.8

「企画展示「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」展アーティスト・トーク」〈ぐんま情報トッピング〉

◎関連事業

・アーティスト・トーク

7.13 児玉靖枝、伊庭靖子

7.28 浅見貴子

8.24 津上みゆき

9.1 金田実生

9.14 日高理恵子

・ワークショップ

7.20

「雑誌や写真で簡単 抽象画風インテリア作り」

講師:水村綾子

8.18

「キラキラ☆ビー玉万華鏡を作ろう！」

協力:群馬県立女子大学 奥西ゼミ

・学芸員による作品解説会

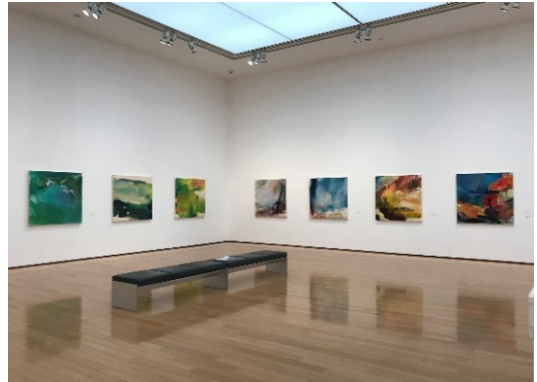
7.24、9.8

・たてび☆キッズウォーク

7.27、8.3



展示室2



展示室2



展示室3



展示室4

3. ピカソ展—ゲルニカ[タピスリ]をめぐって

会期 令和元年10月5日(土)～12月8日(日)
 会場 展示室2、3、4
 主催 群馬県立館林美術館
 後援 スペイン大使館
 観覧料 一般820(650)円 大高生410(320)円
 ()内は、20名以上の団体割引料金
 *大川美術館との相互割引「ピカソと竣介によせて」
 (会期中、観覧券の半券提示で、団体割引料金)

パブロ・ピカソ(1881-1973)は、1937年、故国スペインの内戦で起きた無差別爆撃への衝撃から、大作《ゲルニカ》(プラド美術館(レイナ・ソフィア芸術センター))を描いた。この絵は、同年のバリ万博で展示された後、ピカソの意思によりフランコ政権が終わるまでニューヨーク近代美術館に置かれ、ピカソ死後の1981年によりやくスペインに返還された、20世紀の歴史に深く刻まれる作品である。

本展は、《ゲルニカ》を原画としほぼ同寸大で織られたタピスリ(タペストリー)を中心に、ピカソの絵画や版画の他、関連作品、資料を通して、《ゲルニカ》にまつわる様々な側面を見たものである。災厄に見舞われた人間たちと牛、馬が交錯するイメージとして完成された《ゲルニカ》は、スペイン内戦に対峙する絵画として反ファシズムのメッセージを訴える一方、ピカソの革新的なキュビズムの手法や、牛頭人身の怪物ミノタウロスのテーマ等から発展しつつも多様な解釈を呼ぶ、開かれた作品となっている。本展では、《ゲルニカ》を基点に、ピカソの政治・社会との関わりや、生涯情熱を傾けた闘牛、さまざまな動物のモチーフにも注目した。

ピカソは、タピスリには1930年代から関心を抱き、戦後は版

画や陶芸制作を行っていた南仏で、信頼のおける織り師と出会い、絵画作品にもとづくタピスリ制作を託した。その一つとなる《ゲルニカ(タピスリ)》は、アメリカの大コレクター、ネルソン・ロックフェラーが1作目を購入、モダンアートのタピスリ化の動きを後押しした。後に作られた2、3作目はフランス、日本に所蔵されている。本展ではこのタピスリ誕生の秘話や織り師の働きについても触れた。

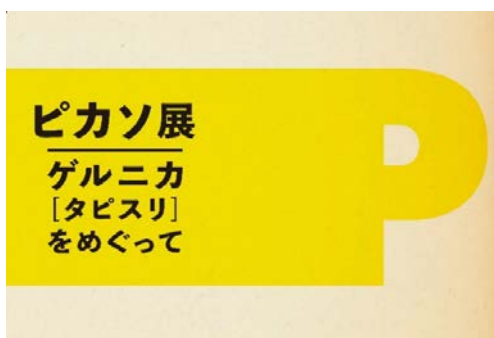
出品作品は、群馬県立近代美術館所蔵の《ゲルニカ(タピスリ)》と当館の版画作品を核に、国内所蔵の作品・資料で構成、油彩画は7点(10月24日まで6点)、版画約70点、陶器10点、タピスリ2点、写真6点、関連資料約20点、計約110点となった。ピカソ作品に加え、図書、新聞などの資料、スペイン内戦のプロパガンダポスターや、内線をとらえたロバート・キャパの写真ほか、多様な内容となった。会場の最後では、「日本におけるピカソ《ゲルニカ》紹介—1937年から戦時中にかけて」として、松本竣介が編集発行した『雑記帳』など、《ゲルニカ》が紹介された雑誌記事についてパネルで解説、資料も展示した。

会期中は関連事業として、ピカソ研究者による《ゲルニカ》の歴史的受容に関する講演会、展覧会担当学芸員による、近年の研究にもとづく《ゲルニカ(タピスリ)》についてのレクチャー、小説『暗幕のゲルニカ』の作者、原田マハ氏によるゲスト・トークを開催した。参加型のイベントでは、作品を前にして参加者が感じたことを自由におしゃべりする「おしゃべり鑑賞会」、ピカソ作品のモチーフを使ったワッペン作りを行った。

本展はメディアでも大きく取り上げられ、これも功を奏して、来館者数は非常に多く、ピカソに対する関心と人気の高さが現れた展覧会となった。



ポスター



図録



ジュニアガイド

出品目録

* 展示期間(記載のないものは全期展示)

I : 2019年10月5日～10月20日 II : 2019年10月22日～11月17日

III : 2019年10月25日～12月8日 IV : 2019年11月19日～12月8日

第1章 まなざしとかたち

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
1-1 サルタンバンク・シリーズ							
1	パブロ・ピカソ	貧しき食事	1904 (1913刷り)	エッチング・紙	46.3×37.5	高崎市美術館	
2	パブロ・ピカソ	貧しき人々	1905 (1913刷り)	エッチング・紙	23.6×18.0	町田市立国際版画美術館	
3	パブロ・ピカソ	サーカス	1905 (1913刷り)	ドライポイント・紙	22.0×14.0	個人蔵	
4	パブロ・ピカソ	水飼場	1906 (1913刷り)	ドライポイント・紙	12.0×18.8	個人蔵	
1-2 キュビズム							
5	パブロ・ピカソ	果物皿のある静物	1909	ドライポイント・紙	13.0×11.0	愛知県美術館	
6	パブロ・ピカソ	マックス・ジャコブ『聖マトレル』	1910 (1911刊)	エッチング・紙	各20.0×14.2	愛知県美術館	
6-1		レオニー嬢					
6-2		テーブル					
6-3		長椅子のレオニー嬢					
6-4		修道院					
7	パブロ・ピカソ	男と犬	1914	エッチング・紙	27.8×21.8	愛知県美術館	
8	パブロ・ピカソ	ギターを持つ男	1915	ビュラン・紙	15.3×11.5	愛知県美術館	
9	パブロ・ピカソ	帽子をかぶった男(アルベール・グレーズ、ジャン・メッツァンジェ『キュビズムについて』(1947刊)より)	1914-15	エッチング・紙	6.5×5.2	公益財団法人大川美術館	
10	パブロ・ピカソ	帽子の男	1915	油彩・カンヴァス	63.0×51.0	東京ステーションギャラリー	
11	パブロ・ピカソ	魚、瓶、コンポート皿(小さなキッチン)	1922	油彩・カンヴァス	81.0×99.5	群馬県立近代美術館	
第2章 愛をめぐる葛藤—「画家とモデル」、ミノタウロス							
12	パブロ・ピカソ	オルレ・ド・バルザック『知られざる傑作』	1927-31 (1931刊)	エッチング・紙		群馬県立館林美術館	
12-1		彫刻の前の彫刻家			19.4×27.8		
12-2		二人のモデルの間の画家			19.4×27.8		
12-3		牡牛と馬			19.2×27.9		
12-4		画家と編み物をするモデル			19.4×28.0		
12-5		塑像する彫刻家			19.3×27.8		
12-6		イーゼルに向かう禿頭の画家			19.4×27.8		
12-7		絵筆を拾う画家			19.4×28.0		
12-8		制作中の画家			19.4×27.9		
12-9		三人の立つ裸婦			19.4×27.6		
12-10		動物と男たちのエスキースに囲まれ坐る裸婦			19.4×27.8		
12-11		絵の前の画家			27.8×19.4		
12-12		イーゼルの前の画家			19.5×27.7		
12-13		目次			27.8×19.7		
13	パブロ・ピカソ	顔	1928	リトグラフ・紙	20.4×14.2	個人蔵	
14	パブロ・ピカソ	彫刻の前の裸婦(「ヴォラール・シリーズ」6)	1931 (1939刷り)	エッチング・紙	31.0×22.1	公益財団法人池田20世紀美術館	
15	パブロ・ピカソ	救助 II	1932 (1961刷り)	エッチング・紙	16.0×20.0	町田市立国際版画美術館	
16	パブロ・ピカソ	『ミノートル』第1号表紙	1933	書籍(表紙:コラージュ作品にもとづく写真製版)	31.5×24.2	慶應義塾大学日吉メディアセンター	

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
17	パブロ・ピカソ	抱擁 III (「ヴォワール・シリーズ」31)	1933 (1939刷り)	ドライポイント・紙	32.0×38.1	東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館	
18	パブロ・ピカソ	酒宴の席のミノートル (「ヴォワール・シリーズ」85)	1933 (1939刷り)	エッチング・紙	30.0×36.6	公益財団法人池田20世紀美術館	
19	パブロ・ピカソ	女のヴェールを剥ぐ牧神 (「ヴォワール・シリーズ」27)	1936 (1939刷り)	アクアチント・紙	31.7×41.7	個人蔵	
20	パブロ・ピカソ	少女に導かれる盲目のミノタウロス III (「ヴォワール・シリーズ」95)	1934 (1939刷り)	エッチング、ビュラン・紙	22.6×31.2	株式会社フジ・メディア・ホールディングス	
21	パブロ・ピカソ	夜、少女に導かれる盲目のミノタウロス (「ヴォワール・シリーズ」97)	1934 (1939刷り)	アクアチント・紙	24.7×34.7	個人蔵	
22	ポール・エリュアール (詩) / パブロ・ピカソ (絵)	大気 (ポール・エリュアール『豊かな瞳』より)	1936	書籍(インク、ペンまたは筆によるテキストとデッサンにもとづく写真製版)	18.6×12.0	群馬県立館林美術館	

第3章 スペイン内戦—《ゲルニカ》の誕生と背景、《ゲルニカ(タピスリ)》まで

23	作者不詳	「犯罪組織は通貨と国の資産の減価を招き、その後、価値下落が起こる。」	1930頃	リトグラフ・紙	99.2×69.4	国立国会図書館	I
24	作者不詳	「前へ！全員が一人の人間のよう」	1936	リトグラフ・紙	99.5×69.6	国立国会図書館	I
25	作者不詳	「殺人！」	1936	リトグラフ・紙	100.0×70.0	国立国会図書館	II
26	ロレンツォ・ゴニ	「前線の兄弟が自由の聖戦のために君を待っている」	1936頃	リトグラフ・紙	100.0×70.0	国立国会図書館	II
27	作者不詳	「強い男は前線へ！」	1936	リトグラフ・紙	100.0×70.0	国立国会図書館	IV
28	エンリク・クリュセレス	カタルーニャ労働総同盟会議	1937	リトグラフ・紙	99.2×68.0	国立国会図書館	IV
29		『無頭人(アセファル) 宗教、社会学、哲学 1936-1939年』ジャン・ミシェル・プラス出版、パリ	1980	書籍	28.0×19.0	埼玉県立熊谷図書館	
30	フェデリコ・ガルシア・ロルカ	『ジプシー歌集』ヌエストロ・プエブロ出版	1937	書籍	15.8×12.2	国立国会図書館	I
31	ミゲル・デ・セルバンテス / ラファエル・アルベルティ (脚色)	『ヌマンシア』シーニョ出版、マドリード	1937	書籍	18.5×11.7	国立国会図書館	II
32	ロバート・キャパ	ヴェルダンの戦い20周年を記念して開かれた平和集会のドイツ代表团、ヴェルダン、フランス	1936年7月12日(1985年プリント)	ゼラチン・シルバー・プリント	38.4×48.3	横浜美術館	
33	ロバート・キャパ	左翼自由主義人民戦線連合にこぶしを挙げて声援を送る婦人、パリ	1936年頃(1985年プリント)	ゼラチン・シルバー・プリント	25.5×33.4	横浜美術館	
34	ロバート・キャパ	前線に向けて出発する軍用列車、バルセロナ	1936年8月(1985年プリント)	ゼラチン・シルバー・プリント	36.9×48.3	横浜美術館	
35	ロバート・キャパ	共和国軍兵士、コルドバ戦線、スペイン	1936年9月初旬(1985年プリント)	ゼラチン・シルバー・プリント	33.2×48.4	横浜美術館	
36	ロバート・キャパ	負傷兵の介抱、マドリード	1936年11～12月(1985年プリント)	ゼラチン・シルバー・プリント	38.4×48.4	横浜美術館	

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
37	ロバート・キャパ	テルエル、アラゴン戦線、スペイン	1938年1月3日 (1985年プリン ト)	ゼラチン・シル バー・プリント	23.2×33.2	横浜美術館	
38	ロバート・キャパ	リオ・セグレ沿いで攻撃中の共和国軍、フラ ガ近郊、アラゴン戦線、スペイン	1938年11月7 日(1985年プ リント)	ゼラチン・シル バー・プリント	25.5×33.2	横浜美術館	
39	ピラル・フィダルゴ	『フランコにより勾留された若い母親』 スペイン文書保管局出版、パリ	1937	冊子	21.0×13.3	国立国会図書館	II
40		『我々のスペイン― 戦時下のスペインにお ける美術品の保護』スペイン共和国防衛の ためのイベロアメリカ委員会、パリ	2012 (原書:1938)	冊子(ファクシミリ 版)	31.0×21.0	個人蔵	
41	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘 I	1937	エッチング、 シュガー・アクア チント・紙	31.5×42.0	個人蔵(群馬県 立近代美術館寄 託)	
42	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘 II	1937	エッチング、 シュガー・アクア チント・紙	31.5×42.0	個人蔵(群馬県 立近代美術館寄 託)	
43	パブロ・ピカソ	フランコの夢と嘘(テキスト付きポートフォリ オ)	1937	ファクシミリ複製	69.5×40.5 (テキスト:57.0 ×38.5)	個人蔵(群馬県 立近代美術館寄 託)	
44		ピカソ《ゲルニカ》42点の習作	1990 (原画:1937)	ファクシミリ複製	61.0×40.0	群馬県立近代美 術館	
45	パブロ・ピカソ(原 画)/ジャクリーヌ・ ド・ラ・ボーム=デュ ルバック(織り)	ゲルニカ(タピスリ)	1983 (原画:1937)	タピスリ・ウール、 綿	328.0×680.0	群馬県立近代美 術館	
46	ジョアン・ミロ	スペインを救え!	1937	ステンシル・紙	32.0×24.5	個人蔵(群馬県 立近代美術館寄 託)	
47		『カイエ・ダール』第12巻	1937	冊子	31.8×24.5	東京藝術大学附 属図書館	
48	パブロ・ピカソ	泣く女	1937	アクアチント、エッ チング、ドライポイ ント・紙	72.3×49.3	和歌山県立近代 美術館	
49	パブロ・ピカソ	花売り	1937	油彩・カンヴァス	80.9×65.1	ポーラ美術館	
50	パブロ・ピカソ	静物	1937	油彩・カンヴァス	38.1×46.2	ポーラ美術館	
51	パブロ・ピカソ	黄色い背景の女	1937	油彩・カンヴァス	130.0×97.0	東京ステーション ギャラリー	
52	パブロ・ピカソ	ひじ掛け椅子の女(リュック・ドゥコーヌ『直 説法現在、あるいは存在することの不自由』 口絵)	1938	エッチング・紙	16.8×11.2	個人蔵	
53	リュック・ドゥコーヌ	『直説法現在、あるいは存在することの不自 由』スート出版、パリ	1938	書籍	22.2×17.6	慶應義塾大学日 吉メディアセン ター	
54	パブロ・ピカソ	女の顔(ポール・エリュアール『ソリダリテ』 口絵)	1938	エッチング・紙	10.4×7.5	彫刻の森美術館 (公益財団法人 彫刻の森芸術文 化財団)	
55	ポール・エリュアー ル	『自然の流れ』サジテール出版、パリ	1938	書籍	20.0×16.0	慶應義塾大学日 吉メディアセン ター	
56	ブラッサイ	ピカソ、グラン=ゾーギュスタン通りのアトリエ にて	1939	ゼラチン・シル バー・プリント (D.O.P)	29.9×23.2	東京都写真美術 館	

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
57	パブロ・ピカソ	静物	1944	油彩・カンヴァス	65.7×92.1	埼玉県立近代美術館	Ⅲ
第4章 戦後の平和運動、ピカソと動物							
58	パブロ・ピカソ	海老と水差し	1948	油彩・カンヴァス	50.0×65.0	公益財団法人 大川美術館	
59	パブロ・ピカソ	オマール海老と魚	1949	リトグラフ・紙	75.0×105.0	個人蔵	
60	パブロ・ピカソ	鳩	1949	リトグラフ・紙	54.6×70.0	町田市立国際版画美術館	
61	パブロ・ピカソ	藁床の鳩	1949	陶器	32.0×39.0× 4.0	公益財団法人 大川美術館	
62	パブロ・ピカソ	スカーフ「平和のための世界青年学生祭典 (東ベルリン)」	1951	シルクスクリーン・ リネン	79.0×80.5	個人蔵	
63	ハワード・ファスト	『スペインと平和』反ファシスト亡命者合同 協議会、ニューヨーク	1952	冊子	21.5×14.0	国立国会図書館	Ⅳ
64	パブロ・ピカソ	新聞挿絵『リュマニテ(日曜版)』1953年12 月27日号掲載	1953	新聞	57.5×42.0	個人蔵	
65	パブロ・ピカソ	新聞挿絵「ユーリイ・ガガーリンの肖像」 (『リュマニテ』1961年4月18日号掲載)	1961	新聞	57.5×42.0	個人蔵	
66	リュシアン・クレル グ	アトリエの入り口、ピカソの右には《朝鮮の虐 殺》の絵。後ろには、ピカソがいつも絵を描く 時に使っていた3本の投光器と、ケンタウロ スの石膏像。奥にはキュトリのコレクションの 二人の裸婦像。	1955	ゼラチン・シル バー・プリント (D.O.P)	22.4×19.0	東京都写真美術 館	
67	ポール・エリュアール	『書毎に詩一篇』	1956		19.0×36.0	高崎市美術館	
67-1	パブロ・ピカソ	口絵		ビュラン・紙	19.0×36.0		
67-2	パブロ・ピカソ	「直接の生」		ビュラン、ドライポ イント・紙	19.0×36.0		
68	パブロ・ピカソ	ホセ・デルガド(ペペ・イリョ)『闘牛技』	1957 (1959刊)	表紙:ドライポイン ト・紙 図版:シュガー・ アクアチント・紙 (68-5:シュガー・ アクアチント、アク アチント・紙)		群馬県立館林美術 館	
68-1		表紙			29.5×36.0		
68-2		田園の牡牛たち			19.4×29.0		
68-3		闘牛場へ			19.4×29.0		
68-4		クアドリーリヤの入場行進			19.4×29.0		
68-5		ドン・タンクレドの呼び込み			19.4×29.0		
68-6		牛舎から出る牡牛			19.6×29.2		
68-7		カパで牡牛をさそう			19.4×29.0		
68-8		ベロニカの技			19.6×29.0		
68-9		長槍での跳躍			19.6×29.0		
68-10		おとなしい牡牛を退場させる誘導牛			19.6×29.2		
68-11		槍突き			19.6×29.2		
68-12		牡牛に犬をけしかける			19.4×29.0		
68-13		ピカドールが槍で牡牛に立ち向かう			19.4×29.0		
68-14		バンデリリヤへ牡牛をさそう			19.4×29.0		
68-15		バンデリリヤを突き刺す			19.4×29.0		

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
68-16		椅子に座ってバンデリリヤへ牡牛を誘う			19.4×29.0		
68-17		マタドールが牡牛の死を捧げる			19.6×29.8		
68-18		ムレータの技			19.4×29.0		
68-19		牡牛が角で闘牛士を引っかける			19.6×29.0		
68-20		殺しの場			19.6×29.2		
68-21		とどめの突き			19.4×29.0		
68-22		とどめの後、闘牛士が牡牛の死を告げる			19.4×29.2		
68-23		牡牛の死			19.6×29.2		
68-24		牡牛を引きずり出す			19.6×29.2		
68-25		支持者たちの肩に担がれて退場する闘牛士			19.4×29.2		
68-26		牡牛を手槍へと誘う			19.6×29.2		
68-27		牡牛を手槍で突く			19.6×29.2		
69	リュシアン・クレルグ	アルルの闘牛場にて、ジャン・コクトーとパブロ・ピカソ、ルイス・ミゲル・ドミンギン	1959	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	22.4×19.0	東京都写真美術館	
70	パブロ・ピカソ	ピカドールと牡牛	1953	陶器	23.6×23.5×12.6	株式会社ヨックモック	
71	パブロ・ピカソ	闘牛の情景	1954	陶器	17.9×17.7×6.4	株式会社ヨックモック	
72	パブロ・ピカソ	牡牛	1955	陶器	30.9×24.2×20.5	株式会社ヨックモック	
73	パブロ・ピカソ	闘牛:入場	1959	陶器	41.3×41.4×2.9	株式会社ヨックモック	
74	パブロ・ピカソ	闘牛:ピカドール(馬に乗って槍で刺す役)	1959	陶器	41.7×41.4×2.9	株式会社ヨックモック	
75	パブロ・ピカソ	闘牛:バンデリリジェーロ(鉞を刺す役)	1959	陶器	41.0×41.1×3.1	株式会社ヨックモック	
76	パブロ・ピカソ	闘牛:死んだ牡牛を引きずって行く	1959	陶器	41.3×41.3×3.1	株式会社ヨックモック	
77	パブロ・ピカソ	闘牛	1959 (1960刷り)	リノカット・紙	53.7×66.5	いわき市立美術館	
78	パブロ・ピカソ	槍	1959 (1960刷り)	リノカット・紙	53.0×63.7	いわき市立美術館	
79	パブロ・ピカソ	槍を突いた後	1959 (1960刷り)	リノカット・紙	53.4×63.7	いわき市立美術館	
80	パブロ・ピカソ	朝日の中の決闘(「347」シリーズ 224)	1968	エッチング・紙	15.0×22.0	公益財団法人大川美術館	
81	パブロ・ピカソ(原画)/ジャクリーヌ・ド・ラ・ボーム=デュルバック(織り)	コンポジション 1955年夏	1972 (原画:1955)	タピスリ・ウール・綿	315.0×415.0	株式会社ニッポン放送	
82	パブロ・ピカソ	ロク・グレイ 『真夜中の馬たち』	1956			群馬県立館林美術館	
82-1		表紙		ドライポイント・紙			
82-2				ビュラン・紙	23.0×15.3		
82-3				ドライポイント・紙	20.8×15.2		
82-4				ドライポイント・紙	20.9×15.3		
82-5				ドライポイント・紙	20.9×15.3		
82-6				ドライポイント・紙	20.8×15.3		
82-7				ビュラン、ドライポイント・紙	20.9×15.4		

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
82-8				ビュラン、ドライポ イント・紙	20.9×15.4		
82-9				ドライポイント・紙	21.0×15.4		
82-10				ドライポイント・紙	20.8×15.4		
82-11				ドライポイント・紙	20.8×15.3		
82-12				ドライポイント・紙	20.9×15.4		
82-13				ビュラン・紙	23.0×15.3		
83	パブロ・ピカソ	ビュフォン 『博物誌』	1936 (1942刊)			群馬県立館林美 術館	
83-1		馬		シュガー・アクア チント、スクレイ パー、ドライポイ ント・紙	27.0×21.0		
83-2		ロバ		シュガー・アクア チント、スクレイ パー、ドライポイ ント・紙	28.8×23.5		
83-3		牛		シュガー・アクア チント、ビュラン、 ドライポイント・紙	28.0×21.8		
83-4		牡牛(スペインの牡牛)		シュガー・アクア チント、ドライポイ ント、ビュラン、ス クレイパー・紙	27.0×23.0		
83-5		ヒキガエル		シュガー・アクア チント、ドライポイ ント・紙	28.0×22.2		
83-6		カエル		シュガー・アクア チント、バーニッ シャー、ドライポイ ント・紙	27.8×21.4		
83-7		牝山羊		シュガー・アクア チント、スクレイ パー、ドライポイ ント・紙	27.6×21.2		
83-8		ライオン(牝ライオン)		シュガー・アクア チント、ドライポイ ント、ビュラン・紙	27.2×21.2		
83-9		猿		シュガー・アクア チント、スクレイ パー、ドライポイ ント・紙	28.0×22.4		
83-10		猫		シュガー・アクア チント、ドライポイ ント、ビュラン、ス クレイパー・紙	26.8×21.6		
83-11		ダチョウ		シュガー・アクア チント、ドライポイ ント・紙	27.0×21.6		
83-12		雄鶏		シュガー・アクア チント、スクレイ パー、ドライポイ ント・紙	26.8×21.0		

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
84	リュシアン・クレルグ	ピカソとムジャンの庭に迷い込んだカエル。 ピカソはカエルのリトグラフを1949年に制作 していた(現在、パリ、ピカソ美術館蔵)。	1968	ゼラチン・シル バー・プリント (D.O.P)	28.4×18.4	東京都写真美術 館	
85	パブロ・ピカソ	山羊の横顔	1952	陶器	40.8×40.3× 5.3	株式会社ヨック モック	
86		『ヴェルヴ』 第5巻19-20号	1948	冊子	35.5×27.0	個人蔵	
87	パブロ・ピカソ	ふくろう	1968	陶器	30.0×23.0× 16.0	株式会社ヨック モック	
88	リュシアン・クレルグ	ピカソは1943年2月または3月に制作した 《羊をもつ男》(ブロンズ)をヴァロリスの町に 寄贈し、別の1点を自身で持っていた(現 在、パリ、ピカソ美術館蔵)。	1965	ゼラチン・シル バー・プリント (D.O.P)	27.9×18.0	東京都写真美術 館	
89	ユーサフ・カーシュ	パブロ・ピカソ	1954	ゼラチン・シル バー・プリント (D.O.P)	60.0×50.3	東京都写真美術 館	
参考 出品		ブラッサイ『語るピカソ』ガリマール出版、パリ Brassai, Conversation avec Picasso, Paris, Gallimard, 1964.	1964	書籍		個人蔵	
参考 出品		スティーヴン・ニュッシュ編『ピカソと戦争の 時代』(展覧会カタログ) NUSH, Steven A. ed, <i>Picasso and the War Years 1937-1945</i> , Fine Arts Museums of San Francisco, New York, Solomon R. Guggenheim Museum, Thames and Hudson, 1998.	1998	書籍		群馬県立近代美 術館	
参考 出品		ジョン・リチャードソン『ピカソ、地中海時代 (1945-1962年)』(展覧会カタログ) RICHARDSON, John, <i>Picasso, The Mediterranean Years (1945-1962)</i> , [Exhibition Catalogue], London, Gagosian Gallery, New York, Rizzoli, 2010.	2010	書籍		個人蔵	

日本におけるピカソ《ゲルニカ》紹介—1937年から戦時中にかけて

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法 縦×横(cm)ま たは高さ×幅 ×奥行(cm)	所蔵	展示 期間
1		松本竣介 編集発行『雑記帳』総合工房、第 2巻第9号、昭和12(1937)年10月[復刻版]				群馬県立近代美 術館	
2		松本竣介 編集発行『雑記帳』総合工房、第 2巻第10号、昭和12(1937)年11月[復刻版]				群馬県立近代美 術館	
3		仲田定之助『ピカソ』(世界美術文庫18)アト リエ社、1938年				個人蔵	
4		『アトリエ』1938年1月号				群馬県立館林美 術館	
5		『ピカソ展 油絵・陶器・グアッシュ・水彩・ デッサン・彫刻・版画・挿絵本』展図録、読売 新聞社、大原美術館他、1951年				群馬県立近代美 術館	
6		『美術グラフ』1962年11・12月号				群馬県立近代美 術館	

◎印刷物・会場作成物

・図録 B5判変形(21.0×276mm) 124頁

内容:

ごあいさつ

謝辞

目次

論文

「《ゲルニカ》、オデッセイアの終着点」(松田健児)

「《ゲルニカ(タピスリ)をめぐって》」(松下和美)

カタログ

第1章 まなざしとかたち

1-1 「サルタンバンク・シリーズ」

1-2 「キュビズム」

第2章 愛をめぐる葛藤—「画家とモデル」、ミノタウロス

第3章 スペイン内戦—《ゲルニカ》の誕生と背景、《ゲルニカ(タピスリ)》

まで

第4章 戦後の平和運動、ピカソと動物

版画技法解説／関連地図

日本におけるピカソ《ゲルニカ》の紹介—1937年から戦時中にかけて

ピカソ関連年譜

作家略歴

主要参考文献

出品作品リスト

参考文献

執筆:松田健児(慶應義塾大学准教授)

松下和美(群馬県立館林美術館学芸員)

編集:群馬県立館林美術館

翻訳:小川紀久子

デザイン:栗原幸治(クリ・ラボ)

制作:印象社

印刷:株式会社東京印書館

発行:群馬県立館林美術館

発行日:2019年10月4日

・ポスター B2

・チラシ A4

・ジュニアガイド 蛇腹折り、18.1×38.1cm(仕上がりサイズ
18.1×9.5cm)

デザイン:栗原幸治(クリ・ラボ)

制作:印象社

・パネル

挨拶2枚、章バナー5枚、解説・年表等パネル13枚、会場配布用作品リ
スト

◎主要関連記事

(長文記事は末尾に*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

・朝日新聞

11.16「新美の巨人たち 太田光がピカソを語る」(試写室)

・朝日ぐんま

「ピカソ展—ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」(文化紀行)* (学芸員 松下
和美)

・産経新聞

11.19

「県立館林美術館「ピカソ展—ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」戦争の残
虐性 語り続ける」(ぐんまアート散歩)*

・上毛新聞

10.3

「ピカソ展 ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」(美術館・博物館)

10.9

「圧巻のゲルニカ 館林美術館「ピカソ展」*」

10.29

「ピカソ代表作「ゲルニカ」読み解く 巨大タピスリ至る関連作」*

11.6

「県立館林美術館「ピカソ展」より①《ゲルニカ(タピスリ)》」(アートを愉し
む)*

11.7

「県立館林美術館「ピカソ展」より②《フランコの夢と嘘Ⅱ》」(アートを愉し
む)*

11.12

「県立館林美術館「ピカソ展」より③《泣く女》」(アートを愉しむ)*

11.13

「県立館林美術館「ピカソ展」より④《花売り》」(アートを愉しむ)*

11.14

「県立館林美術館「ピカソ展」より⑤《ピカドールと牡牛》」(アートを愉し
む)*

・上毛新聞 シャトル

10.17

「多様な「ゲルニカ」ピカソ展 ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」

・桐生タイムス(夕刊)

9.18

「ゲルニカのタピスリ秘話も 県立館美で「ピカソ展」*」

・読売新聞

10.4

「館林 ピカソ展 ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」(イベントガイド)

・両毛新聞

10.5

「ピカソ展 群馬県立館林美術館」

[定期刊行物]

・美術の窓

11月号

「ピカソ展 ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」(展覧会プレビュー)*

・ふりぺっこ

10月号

「ピカソ展―ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」

・NHKラジオ まいにちスペイン語

11月号

「ピカソ展 ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」(information)

・raifu

10月号

「スペインの内戦を描いたピカソ作品を紹介」(群馬県内のイベント)

11月号、12月号

「群馬県立館林美術館」(Art&StageEvent)

[単行書]

・伊藤伸平『総額33万円・9日間から行く！世界一周大人の男海外ひとり旅』

ダイヤモンド・ビッグ社 12月

「3つめの《ゲルニカ(タピスリ)》」*

◎放送

[テレビ]

・テレビ東京

11.16(再放送:BSテレビ東京 12.7)

「パブロ・ピカソ×太田光「アートで人生が変わった パブロ・ピカソ 前編」群馬県立館林美術館」(新 美の巨人たち)

[ラジオ]

・FM桐生

10.24

「「ピカソ展―ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」開催のお知らせ」(ぐんまいきいき情報)

11.12

「ピカソ展 たてび☆びじゅつ部 開催のお知らせ」(ぐんまいきいき情報)

12.3

「たてび☆キッズウォーク 開催のお知らせ」(ぐんまいきいき情報)

・FM群馬

10.16

「「ピカソ展―ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」について」(FM GUNMA POTLUCK)

・FM太郎

10.29

「「ピカソ展―ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」開催のお知らせ」(ぐんまいきいき情報)

12.3

「たてび☆キッズウォーク 開催のお知らせ」(ぐんまいきいき情報)

◎関連事業

・レクチャー

10.27

「ゲルニカ[タピスリ]誕生秘話」

講師:松下和美(当館学芸員)

・記念講演会

11.10

「《ゲルニカ》は誰のもの？―ピカソとスペインの綱引き」

講師:松田健児氏(慶應義塾大学准教授)

・ゲストトーク

11.17

「原田マハが語る、ゲルニカ[タピスリ]」

ゲスト:原田マハ氏(小説家)

・おしゃべり鑑賞会

11.30

協力:対話型アート鑑賞ラボ

・学芸員による作品解説会

10.12、11.20

・たてび☆キッズウォーク

10.19、11.16、12.7

・たてび☆びじゅつ部

11.2

①「ピカソの絵からフェルトのワッペンをつくろう」

11.23

②「展覧会ポスターでエコバッグをつくろう」



展示室4



展示室4



展示室3



展示室2

第1期 4月20日(土)～6月23日(日)

展示室1

「近現代の彫刻Ⅰ」

第2期 7月13日(土)～9月16日(月・祝)

展示室1

「近現代の彫刻Ⅱ」

第3期 10月5日(土)～12月8日(日)

展示室1

「近現代の彫刻Ⅲ」

◎印刷物・会場作成物

「近現代の彫刻Ⅰ」

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

「近現代の彫刻Ⅱ」

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

「近現代の彫刻Ⅲ」

・パネル1枚

・会場配布用作品リスト

近現代の彫刻 I

平成31年4月20日(土)～令和元年6月23日(日) 展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行) cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	ラクダ	1906 - 1930	ブロンズ	15.6 × 23.0 × 6.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	ほろほろ鳥	1910 - 1912	ブロンズ	19.8 × 23.4 × 10.7	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	フクロウ	1923	ブロンズ	17.7 × 7.9 × 8.2	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
9	チャーナ・オルロフ	魚ノ噴水	1929	ブロンズ	40.7 × 40.5 × 13.3	群馬県立館林美術館
10	バーバラ・ヘップワース	アポロン	1951	スチール・ロッド	158.5 × 110.5 × 79.0	群馬県立館林美術館
11	フェルナン・レジェ	花々の中の鳥	1953	ブロンズ	43.0 × 35.0 × 5.0	群馬県立館林美術館
12	アーブラハム＝ダー フィット・クリスティアン	清らかな人 XI	1982	ブロンズ	166.2 × 57.8 × 28.0	群馬県立館林美術館
13	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
14	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	群馬県立館林美術館
15	リサ・ラーソン	2つの横顔	1986	陶器	19.5 × 21.5 × 4.5	群馬県立館林美術館
16	森亮太	座標	1988	黒御影石	27.5 × 27.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
17	土谷武	蝶 I	1993	軟鋼	147.0 × 130.0 × 160.0	群馬県立館林美術館
18	フェルナンド・ボテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	群馬県立館林美術館
19	ブルーノ・ロメダ	純粹な大円	2003	ブロンズ	188.0 × 191.2 × 20.0	群馬県立館林美術館



近現代の彫刻Ⅱ

令和元年7月13日(土)～9月16日(月・祝) 展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行)cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	風見鶏	1908 - 1932	銅板	47.0 × 54.4 × 6.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	雉鳩	1919	ブロンズ	24.0 × 8.7 × 9.5	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	パン	1923頃	ブロンズ	26.0 × 29.0 × 12.0	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
8	チャーナ・オルロフ	鳥	1924	ブロンズ	100.5 × 32.2 × 30.0	群馬県立館林美術館
9	チェスラフ・ズベール	ターコイズ・フォレスト	1994	ブロンズ、ガラス	46.0 × 51.0 × 35.0	群馬県立館林美術館
10	ヘンリー・ムーア	羊	1960	ブロンズ	19.8 × 24.0 × 11.3	群馬県立館林美術館
11	ヘンリー・ムーア	後ろ足で立つ馬	1972	ブロンズ	20.0 × 9.0 × 7.0	群馬県立館林美術館
12	ヘンリー・ムーア	馬の頭部	1982	ブロンズ	13.6 × 12.0 × 6.5	群馬県立館林美術館
13	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
14	フェルナンド・ボテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	群馬県立館林美術館
15	ジム・ダイン	キング・パロット	1995	ブロンズ	216.0 × 122.0 × 112.0	群馬県立館林美術館
16	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	群馬県立館林美術館
17	鶴岡政男	ロレンスの顔	1951	ブロンズ	6.0 × 4.5 × 5.5	群馬県立館林美術館
18	鶴岡政男	男の顔	1951	ブロンズ	9.2 × 4.5 × 6.5	群馬県立館林美術館
19	森亮太	二つの突起	1982	黒御影石	27.0 × 55.0 × 17.0	群馬県立館林美術館
20	森亮太	風の扉	1987	黒御影石	101.0 × 34.5 × 31.0	群馬県立館林美術館
21	土谷武	蝶Ⅰ	1993	軟鋼	147.0 × 130.0 × 160.0	群馬県立館林美術館
22	林茂樹	OO-XVIII	2017	陶器	40.0 × 80.0 × 38.0	群馬県立館林美術館寄託



近現代の彫刻 III

令和元年10月5日(土)～12月8日(日) 展示室 1

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(高さ×幅×奥行) cm	所蔵
1	フランソワ・ボンボン	コゼット	1888	ブロンズ	41.0 × 18.0 × 13.0	群馬県立館林美術館
2	フランソワ・ボンボン	ブーヴルイユの教会	1900 頃	石膏	11.4 × 14.0 × 12.5	群馬県立館林美術館
3	フランソワ・ボンボン	牝豚	1918	ブロンズ	11.0 × 20.0 × 5.5	群馬県立館林美術館
4	フランソワ・ボンボン	ヒグマ	1918 - 1926	ブロンズ	9.2 × 15.8 × 7.0	群馬県立館林美術館
5	フランソワ・ボンボン	カバ	1918 - 1931	石膏	21.2 × 23.0 × 8.5	群馬県立館林美術館
6	フランソワ・ボンボン	シロクマ	1923 - 1933	白色大理石	24.7 × 45.5 × 11.7	群馬県立館林美術館
7	フランソワ・ボンボン	仔鹿	1927 - 1928	石膏	19.3 × 25.0 × 9.3	群馬県立館林美術館
8	フランソワ・ボンボン	巣の中の雌鳩	1928	石膏	9.3 × 29.3 × 14.0	群馬県立館林美術館
9	フランソワ・ボンボン	ポストン・テリヤ「トーイ」	1930 - 1932	石膏	18.8 × 20.2 × 10.0	群馬県立館林美術館
10	フランソワ・ボンボン	猪	1925 - 1929	石膏	22.8 × 37.1 × 10.0	群馬県立館林美術館
11	フランソワ・ボンボン	大黒豹	1930 - 1931	ブロンズ	25.0 × 81.0 × 14.0	群馬県立館林美術館
12	マックス・エルンスト	外壁のマスク	1948	ブロンズ	23.8 × 38.6 × 19.2	群馬県立館林美術館
13	フェルナン・レジュ	花々の中の鳥	1953	ブロンズ	43.0 × 35.0 × 5.0	群馬県立館林美術館
14	ジョアン・ミロ	鳥	1970	ブロンズ	60.7 × 40.7 × 40.7	群馬県立館林美術館
15	ヘンリー・ムーア	母と子	1938	ブロンズ	11.4 × 7.4 × 5.7	群馬県立館林美術館
16	ヘンリー・ムーア	立っている少女	1981	ブロンズ	23.7 × 5.9 × 7.6	群馬県立館林美術館
17	ヘンリー・ムーア	小さな人体	1983	ブロンズ	14.2 × 6.0 × 5.4	群馬県立館林美術館
18	アーブラハム＝ダー フィット・クリスティアン	清らかな人 XI	1982	ブロンズ	166.2 × 57.8 × 28.0	群馬県立館林美術館
19	バリー・フラナガン	仔象	1984	ブロンズ	174.5 × 104.1 × 62.2	群馬県立館林美術館
20	イサム・ノグチ	リス	1984 - 1988	ブロンズ板	61.0 × 48.0 × 39.0	群馬県立館林美術館
21	フェルナンド・ボテロ	馬	1995	ブロンズ	50.4 × 38.0 × 26.6	群馬県立館林美術館
22	和南城孝志	Archetypus 空間への旅 I	1979	ブロンズ	12.0 × 35.0 × 35.0	群馬県立館林美術館
23	和南城孝志	Archetypus 円のイメージ I	1981	ベルギー産黒 大理石	20.0 × 50.0 × 50.0	群馬県立館林美術館
24	森亮太	波	1990	黒御影石	33.0 × 51.0 × 8.0	群馬県立館林美術館
25	岡本健彦	風神・雷神	1993	油彩、鉛、ステ レススチー ル、カンヴァ ス、合板	183.0 × 200.0 × 398.0	群馬県立館林美術館寄託
26	勅使河原蒼風	題不詳	不詳	銅	44.0 × 53.0 × 48.0	群馬県立館林美術館寄託



D 彫刻家のアトリエ(別館)展示記録

彫刻家のアトリエの展示ケース内にて資料(一部複製)を展示。展示ごとに配布用解説を作成した。

第1期

「フランソワ・ポンポン関連資料よりーポンポンと東洋」

4月20日(土)～6月23日(日)

展示資料:絵はがき3点、手帳、写真ほか

ポンポンと東洋の関連を示す資料を紹介した。ポンポンは、1925年、藤田嗣治と同時にレジオン・ドヌール勲章を受章しており、評論家を介して互いを知っていた可能性がある。友人からポンポンに送られた絵はがきには、藤田の絵も見つかり、手帳や絵はがきからは、日本人、中国人との交流、作品の購入が示唆される。ポンポンの作品における日本の工芸品の影響についてもフランス調査時の写真などととも触れた。

第2期

「フランソワ・ポンポン関連資料よりーポンポンの故郷 ブルゴーニュ」

7月13日(土)～9月16日(日)

展示資料:絵はがき8点、参考写真9点ほか

フランス中部ブルゴーニュ地方の町ソーリュウに生まれ、中心都市ディジョンで彫刻を学んだポンポンは、パリに出た後も故郷との関わりは強くあった。ブルゴーニュについて、当時の風景やポンポンの活動、現在の町の様子などを、ポンポンが所蔵していた絵はがきやフランス調査時の写真と記録から紹介した。

第3期

「フランソワ・ポンポン関連資料よりー動物園とポンポン」

10月5日(土)～12月8日(日)

展示資料:絵はがき20点、新聞切り抜き1点ほか

動物観察に根ざした制作を行ったポンポンにとって、動物園は、作品の誕生する重要な場所だった。ポンポンがコレクションしていた動物園の動物の絵はがきをもとに、当時のパリの動物園を紹介。また1931年の植民地博覧会で作られた動物園や、友人から送られた外国の動物園、シロクマの絵はがきなどにも触れた。



E 入館者数一覧表

企画展示

	有料観覧者							無料観覧者					観覧者 合計	入館者 合計
	個人		団体			有料 合計	小中 生	学校 団体	身体障 害者等	その他	無料 合計			
	一般	大高生	小計	一般	大高生							小計		
熊谷守一 4/20-6/23 57日	7,221	140	7,361	85	0	85	7,446	293	0	407	4,108	4,808	12,254	14,111
みつめる 7/13-9/16 58日	3,071	195	3,266	42	0	42	3,308	951	267	212	5,675	7,105	10,413	12,616
ピカソ 10/5-12/8 56日	13,407	443	13,850	179	37	216	14,066	934	641	741	9,782	12,098	26,164	29,891
工事休館中(12/9- 3/31)の教育普及事 業参加者													-	1,104
企画展示 計 171日	23,699	778	24,477	306	37	343	24,820	2,178	908	1,360	19,565	24,011	48,831	57,722

入館者数は、観覧者数に施設利用者数、教育普及事業参加者数を加えた総数。
平成31・令和元年度の総入館者数は、57,722人である。

教育普及

A 講演会・アーティストトーク・パフォーマンス

展覧会に関連した講演会、美術講座を開催した。

1. 講演会

開催日	名称	講師	会場	参加者数
5.18	記念講演会「熊谷守一を見つめて」	池田良平(天童市美術館館長)	講堂	127
11.1	記念講演会「《ゲルニカ》は誰のもの？-ピカソとスペインの綱引き」	松田健児(慶應義塾大学准教授)	講堂	99

2. トークイベント

展覧会の出品作家が自らの作品について語った。

開催日	名称	講師	会場	参加者数
7.13	「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク	児玉靖枝、伊庭靖子	展示室	64
7.28	「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク	浅見貴子	展示室	44
8.24	「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク	津上みゆき	展示室	45
9.1	「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク	金田実生	展示室	60
9.14	「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク	日高理恵子	展示室	54
11.17	ゲストトーク「原田マハが語る、ゲルニカ[タピスリ]」	原田マハ	講堂	114



記念講演会「熊谷守一を見つめて」



記念講演会「《ゲルニカ》は誰のもの？-ピカソとスペインの綱引き」



「みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-」アーティストトーク



ゲストトーク「原田マハが語る、ゲルニカ[タピスリ]」

B 作品解説会・ギャラリートーク・キッズウォーク・ボンボンツアー

1. 学芸員による作品解説会

各展覧会において、学芸員が作品解説を行った。

開催日	展示の名称	解説者	会場	参加者数
4.24	熊谷守一のちを見つめて	野澤広紀	展示室	25
5.25	熊谷守一のちを見つめて	野澤広紀	展示室	50
6.8	熊谷守一のちを見つめて	野澤広紀	展示室	40
7.24	みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-	松下由里	展示室	13
9.8	みつめる-見ることの不思議と向き合う作家たち-	松下由里	展示室	20
10.12	ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって	松下和美	展示室	中止※
11.9	ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって	松下和美	展示室	70
11.20	ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって	松下和美	展示室	110

※台風接近に伴う臨時休館のため

2. たてび☆キッズウォーク

参加者は、ワークシートを持って展示室を自由に探検しながら作品を鑑賞した。

開催日	担当者	会場	参加者数
4.3	橋本美紀・齋藤久美子	展示室	3
5.25	伊羅子典代・羽鳥あゆみ	展示室	25
6.15	橋本美紀・竹淵典子	展示室	5
7.27	橋本美紀・齋藤久美子・竹淵典子	展示室	15
8.3	橋本美紀・齋藤久美子・竹淵典子	展示室	21
9.7	橋本美紀・齋藤久美子	展示室	7
10.19	橋本美紀・齋藤久美子	展示室	11
11.16	齋藤久美子	展示室	16
12.7	齋藤久美子	展示室	34

3. ボンボン・ツアー

当館人気のフランソワ・ボンボンの彫刻や公開資料を、学芸員の詳しい解説付きでご覧頂くスペシャル・ツアーを行った。

開催日	解説者	会場	参加者数
6.2	松下和美	彫刻家のアトリエ	28
8.4	松下和美	彫刻家のアトリエ	25
11.24	松下和美	彫刻家のアトリエ	53



学芸員による作品解説会



学芸員による作品解説会



たてび☆キッズウォーク



ポンポン・ツアー

C ワークショップ

開催日	名称	講師	会場	参加者数
7.20	雑誌や写真で簡単 抽象画風インテリア作り	水村綾子(画家・出品作家)	ワークショップ室	8

1. 雑誌や写真で簡単 抽象画風インテリア作り

夏の企画展示「みつめる」の関連事業として、出品作家であり、様々な感覚を繊細な色彩で絵画に表現する画家・水村綾子氏を迎え、写真や雑誌の切り抜きを使い、形や色を自由に組み合わせることで抽象画風のインテリアを作るワークショップを開催した。始めに展示室にて水村氏の作品を鑑賞し、参加者の感じたことを自由に発言してもらい、緊張をほぐしながら抽象画のイメージをふくらませた。その後、参加者は水村氏のアドバイスを聞きながら、ワークショップ室にて雑誌の写真からテーマを考え、思い思いに選び、切り抜き、それらを集めてコラージュを作成していった。



雑誌や写真で簡単 抽象画風インテリア作り

D 創作体験コーナー みんなのアトリエ「多色摺り木版画の摺り体験」

みんなのアトリエは夏季企画展会期中の事業で、参加者に簡単な多色摺り木版画の摺り体験を提供している。平成21年度より、同会期中に「館林邑楽地区小学生木版画展」を開催していることから、テーマの関連を図り、この事業が始まった。今回は講師に、木版画家の常田泰由氏を招き、同氏が制作した版により、摺り方の基本や多色摺りの美しさや面白さを教えていただいた。全4回開催し、151人が参加した。

開催日	名称	講師	会場	参加者数
7.18	多色摺り木版画の摺り体験	常田泰由(木版画家)	ワークショップ室	3
7.25	多色摺り木版画の摺り体験	常田泰由(木版画家)	ワークショップ室	45
8.8	多色摺り木版画の摺り体験	常田泰由(木版画家)	ワークショップ室	57
8.15	多色摺り木版画の摺り体験	常田泰由(木版画家)	ワークショップ室	46



みんなのアトリエ「多色摺り木版画摺り体験」



みんなのアトリエ「多色摺り木版画の摺り体験」

E たてび☆びじゅつ部

1. たてび☆びじゅつ部

「たてび☆びじゅつ部」は誰でも気軽に参加できる無料の造形体験コーナーである。展覧会に関連した造形体験を企画開催した。

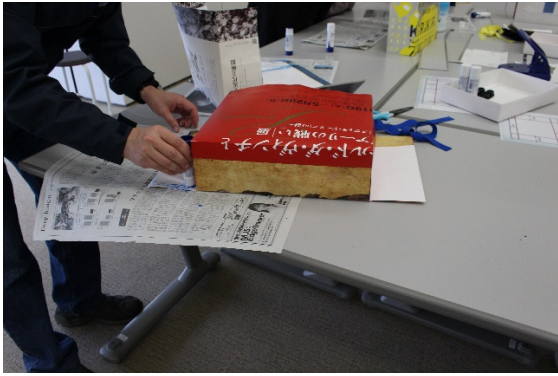
開催日	名称	会場	参加者数
5.11	「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」	ワークショップ室	30
5.26	「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」	ワークショップ室	51
6.9	「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」	ワークショップ室	83
11.2	「ピカソの絵からフェルトのワッペンをつくろう」	ワークショップ室	80
11.23	「展覧会ポスターでエコバックをつくろう」	講堂	130



たてび☆びじゅつ部「プラ板でモリカズ風ストラップをつくろう」



たてび☆びじゅつ部「ピカソの絵からフェルトのワッペンをつくろう」



たてび☆びじゅつ部「展覧会ポスターでエコバッグをつくろう」

2. 展覧会ポスタープレゼント

当館が保管していた過去の展覧会ポスターを来館者に無料で配布した。たてび☆びじゅつ部「展覧会ポスターでエコバッグをつくろう」と同時開催した。参加者は多彩なポスターに見入りながら、気に入ったポスターを持ち帰った。

開催日	名称	会場	参加者数
11.23	展覧会ポスタープレゼント	講堂前通路	366



展覧会ポスタープレゼント

F コンサート・読み聞かせ・その他イベント

1. レクチャー

企画展示「ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」の関連事業として、当館学芸員によるレクチャーを開催した。

開催日	名称	会場	参加者数
10.27	レクチャー「ゲルニカ[タピスリ]誕生秘話」	松下和美(当館学芸員) 講堂	88



レクチャー「ゲルニカ[タピスリ]誕生秘話」

2. おしゃべり鑑賞会

企画展示「ピカソ展ゲルニカ[タピスリ]をめぐって」の関連事業として、対話型鑑賞(Visual Thinking Strategie)の理論を学び、各地で対話型鑑賞を実践する県内有志の集まり「対話型アート鑑賞ラボ」のメンバーがファシリテーター(進行役)となり、ピカソへの理解を深めるための鑑賞会を行った。アイスブレイクとして研修室でアートカードを使った自己紹介を行った後、展示室に移動し、グループ毎に鑑賞を行った。参加者は、他人と交流しながら鑑賞することで、新たな作品の見方ができたと喜んでいました。

開催日	名称	講師	会場	参加者数
11.30	おしゃべり鑑賞会	対話型アート鑑賞ラボ	研修室・展示室	15



おしゃべり鑑賞会

G 学校連携その他

当館では、学校との連携に力を入れており、当館独自の鑑賞プログラム「たてび☆スクールプログラム」を作成し、見学の受け入れや訪問鑑賞授業を積極的に行っている。また、美術館の活用法を紹介する教職員向けのセミナーを開催したり、近隣の芸術科を有する西邑楽高校や県立女子大学との連携したイベントを開催している。一般団体においては、解説を希望する団体に、観覧前の概要説明や学芸員による展示室解説を行っている。

1. 学校との連携事業

(1)連携授業等

開催日	名称	学校名、学年	担当	会場	参加者数
5.15	職場体験打合せ・見学	白鷗大学足利中学校2年生	橋本	会議室・展示室	4
5.25	美術館見学・作品解説会	大泉町立北中学校美術部	羽鳥	研修室・展示室・別館	22
5.30	訪問鑑賞授業	前橋市立富士見中学校1年生	橋本・羽鳥	前橋市立富士見中学校	103
6.7	美術館見学	埼玉県立羽生高等学校	羽鳥	講堂・展示室	8
6.11	職場体験	白鷗大学足利中学校2年生	橋本	会議室・展示室等	5
6.12	職場体験	白鷗大学足利中学校2年生	橋本	会議室・展示室等	4
6.13	職場体験	白鷗大学足利中学校2年生	橋本	会議室・展示室等	4
6.14	訪問鑑賞授業	前橋市立富士見中学校1年生	橋本・羽鳥	前橋市立富士見中学校	102
6.25	訪問鑑賞授業	板倉町立板倉中学校2年生	橋本	板倉町立板倉中学校	38
6.27	訪問鑑賞授業	板倉町立板倉中学校2年生	橋本	板倉町立板倉中学校	38
7.2	訪問鑑賞授業	板倉町立板倉中学校2年生	橋本	板倉町立板倉中学校	38
7.3	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校1年生	橋本	館林市立第一小学校	86
7.23	絵画教室	渡瀬公民館家庭学級(館林九小)	橋本	展示室・ワークショップ室	30
7.24	絵画教室	渡瀬公民館家庭学級(館林九小)	橋本	展示室・ワークショップ室	26
7.24	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校美術部	伊羅子	展示室	10
7.25	美術館見学・みんなのアトリエ	太田市立太田中学校美術部	羽鳥	研修室・展示室・ワークショップ室	30
7.26	職場体験打合せ・見学	明和町立明和中学校2年生	橋本	展示室・学芸室	2
7.31	美術館見学・宿題相談室	西邑楽高等学校	橋本	展示室・ワークショップ室	12
8.1	美術館見学・宿題相談室	西邑楽高等学校	橋本	展示室・ワークショップ室	10
8.1	美術館見学	すいらん	橋本	展示室	45
8.9	美術館見学	ひまわりクラブ	橋本	研修室・展示室	22
8.10	美術館見学・ミニコンサート	西邑楽高等学校吹奏楽部	橋本	研修室・展示室・エントランスホール	26
8.20	美術館見学	渋川市北橋公民館	橋本	研修室・展示室	27
8.20	美術館見学	行田市立長野中学校美術部	橋本	展示室	16
8.22	職場体験	明和町立明和中学校2年生	橋本	会議室・展示室等	2
8.23	職場体験	明和町立明和中学校2年生	橋本	会議室・展示室等	2
8.28	美術館見学	佐野市立西中学校美術部	橋本	研修室・展示室	19
9.4	美術館見学	西邑楽高等学校1, 2年生	松下(由)・橋本	研修室・展示室	71
9.11	美術館見学	西邑楽高等学校3年生	松下(由)・橋本	研修室・展示室	30
9.12	美術館見学	館林教育研究所	橋本	研修室・展示室・別館	4
9.12	美術館・施設見学	館林市立第八小学校4年生	橋本・伊羅子	講堂・展示室・エントランスホール	90
9.18	職場体験打合せ	館林市立第四中学校	橋本	学芸室	1
10.1	職場体験打合せ	邑楽町立邑楽中学校	橋本	学芸室	1
10.2	訪問鑑賞授業	桐生市立東小学校1, 2, 6年生	橋本・羽鳥	桐生市立東小学校	101
10.3	訪問鑑賞授業	桐生市立東小学校2, 3年生	橋本・羽鳥	桐生市立東小学校	50
10.4	訪問鑑賞授業	館林市立第十小学校3年生	橋本・羽鳥	館林市立第十小学校	94
10.8	町探検・美術館見学	館林市立第八小学校2年生	橋本・竹渕	講堂・展示室・別館	92
10.10	職場体験	館林市立第四中学校	橋本	会議室・展示室等	1
10.11	職場体験	館林市立第四中学校	橋本	会議室・展示室等	1
10.23	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校1年生	橋本	研修室・展示室・別館	25
10.24	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校5年生	橋本・羽鳥	館林市立第一小学校	102
10.25	美術館見学	群馬県立館林高等特別支援学校3年生	橋本	研修室・展示室・別館	31
10.27	美術館見学	太田フレックス高等学校	橋本	講堂・展示室・別館	86
10.29	美術館見学	榛東村立南小学校5年生	橋本・竹渕・羽鳥	講堂・展示室・別館	52
10.29	美術館見学	伊勢崎市立殖蓮小学校5年生	橋本・竹渕・羽鳥	講堂・展示室・別館	128
10.30	美術館見学	高崎市立城南小学校5年生	齊藤・竹渕	講堂・展示室・別館	30
10.31	美術館見学	中央工学校	松下(和)	研修室・展示室・別館	39
11.2	美術館見学・たてび☆びじゅつ部	語学教室SLA	橋本	研修室・展示室・別館	14
11.2	美術館見学・たてび☆びじゅつ部	太田市立西中学校美術部	橋本	展示室・別館	12
11.6	美術館見学	館林市立第八小学校6年生	橋本	講堂・展示室・別館	94
11.7	美術館見学	太田市立鳥之郷小学校6年生	橋本・竹渕・羽鳥	講堂・展示室・別館	81
11.8	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校2年生	橋本・羽鳥	館林市立第一小学校	89

11.12	訪問鑑賞授業	館林市立第十小学校4年生	橋本・竹渕	館林市立第十小学校	88
11.14	職場体験	邑楽町立邑楽中学校	橋本	会議室・展示室等	1
11.15	職場体験	邑楽町立邑楽中学校	橋本	会議室・展示室等	1
11.19	訪問鑑賞授業	館林市立第五小学校5,6年生	橋本・竹渕	館林市立第五小学校	66
11.21	訪問鑑賞授業	館林市立第五小学校5,6年生	橋本・竹渕	館林市立第五小学校	67
11.22	美術館見学	館林市立第二中学校特別支援学級	橋本	研修室・展示室・別館	6
11.27	訪問鑑賞授業	館林市立美園小学校3年生	橋本・羽鳥	館林市立美園小学校	57
11.28	訪問鑑賞授業	館林市立美園小学校3年生	橋本・羽鳥	館林市立美園小学校	30
11.29	訪問鑑賞授業	板倉町立西小学校6年生	橋本・羽鳥	板倉町立西小学校	57
11.29	美術館見学	館林市立第三中学校1年生	橋本	研修室・展示室・別館	14
12.5	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校3年生	橋本・羽鳥	館林市立第一小学校	105
12.10	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校1年生	橋本・竹渕	館林市立第二小学校	30
12.11	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校1年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	31
12.18	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校特別支援学級	橋本・竹渕	館林市立第一小学校	12
1.8	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校2年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	62
1.9	訪問鑑賞授業	太田市立沢野中央小学校4年生	橋本・羽鳥	太田市立沢野中央小学校	68
1.10	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校6年生	橋本・羽鳥	館林市立第一小学校	83
1.14	訪問鑑賞授業	館林市立第一小学校4年生	橋本・竹渕	館林市立第一小学校	86
1.15	訪問鑑賞授業	桐生市立東小学校4,5年生	橋本・羽鳥	桐生市立東小学校	68
1.21	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校2年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	31
1.22	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校2年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	31
1.24	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校5,6年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	107
1.28	訪問鑑賞授業	館林市立第四小学校4年生	橋本	館林市立第四小学校	12
1.30	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校4年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	55
2.5	訪問鑑賞授業	太田市立綿打中学校2年生	橋本	太田市立綿打中学校	76
2.6	訪問鑑賞授業	太田市立綿打中学校1年生	橋本	太田市立綿打中学校	86
2.7	訪問鑑賞授業	館林市立第四小学校4年生	橋本	館林市立第四小学校	13
2.12	訪問鑑賞授業	邑楽町立中野東小学校2,4年生	橋本・羽鳥	邑楽町立中野東小学校	75
2.19	訪問鑑賞授業	館林市立第二小学校3年生	橋本・羽鳥	館林市立第二小学校	51

(2)主任会、研修会の実施、参加

開催日	名称	学校名、組織名	担当	会場	参加者数
4.10	館林市中学校美術部会	館林市中学校美術部会	橋本美紀	館林市立第一中学校	7
4.15	館林市小学校図工部会	館林市小学校図工部会	橋本美紀	館林市立第一小学校	13
5.10	館林市小学校図工部会	館林市小学校図工部会	橋本美紀	研修室・展示室	13
6.5	館林市中学校美術部会	館林市中学校美術部会	橋本美紀	館林市立第二中学校	7
6.7	ぐんま国際アカデミー下見・打合せ	ぐんま国際アカデミー	熊谷ゆう子・ 羽鳥あゆみ	研修室・展示室	1
6.26	邑楽郡小学校図工部会	邑楽郡小学校図工部会	橋本美紀	研修室	17
6.27	明和町立明和中学校職場体験打合せ	明和町立明和中学校	橋本美紀	学芸室	1
7.17	渡瀬公民館下見・打合せ	渡瀬公民館	橋本美紀	学芸室・展示室	1
7.19	群馬県立館林高等特別支援学校下見・打合せ	群馬県立館林高等特別支援学校	橋本美紀	学芸室・展示室	1
8.2	太田市立鳥之郷小学校下見・打合せ	太田市立鳥之郷小学校	橋本美紀	会議室・展示室	3
8.2	伊勢崎市立殖蓮小学校下見・打合せ	伊勢崎市立殖蓮小学校	橋本美紀	会議室・展示室	3
8.9	館林市立第二中学校下見・打合せ	館林市立第二中学校	橋本美紀	会議室・展示室	1
8.9	太田フレックス高等学校下見・打合せ	太田フレックス高等学校	橋本美紀	エントランスホール・講堂・ 展示室	3
8.22	邑楽郡小学校図工部会実技講習会	邑楽郡小学校図工部会	橋本美紀	研修室・展示室	24
8.28	高崎市立城南小学校下見・打合せ	高崎市立城南小学校	橋本美紀	エントランスホール・展示室	1
9.3	館林市立第四中学校職場体験打合せ	館林市立第四中学校	橋本美紀	学芸室	1
9.6	館林市中学校美術部会	館林市中学校美術部会	橋本美紀	館林市立第三中学校	7
9.9	邑楽町立高島小学校研修	邑楽町立高島小学校	橋本美紀	邑楽町立高島小学校	20
10.18	群馬県立館林高等特別支援学校下見・打合せ	群馬県立館林高等特別支援学校	橋本美紀	展示室	2
10.23	太田市立綿打小学校下見・打合せ	太田市立綿打小学校	橋本美紀	学芸室・展示室	1
11.20	邑楽郡小学校図工部会	邑楽郡小学校図工部会	橋本美紀	研修室	18

(3)「先生のための美術館サマーセミナー」の開催

開催日 名称	担当	会場	参加者数
8.21 先生のための美術館サマーセミナー	橋本美紀	研修室、展示室	6

学校の夏季休業期間中に、教職員を対象とした「先生のための美術館サマーセミナー」を開催した。本事業は、教職員が美術館をもっと身近なものとしてとらえ、学校の授業や行事の中に気軽に取り入れ、活用していけるように企画したものである。「たてび☆スクールプログラム」について、利用例をスライドで紹介したり、ワークシートを使った鑑賞やアートカードゲームなどを実際に体験していただいたりした。参加者は、美術館活動に関心を寄せ、学校の授業に積極的に取り入れようとしていた。



学校訪問鑑賞授業



美術館見学



先生のための美術館サマーセミナー

2. 群馬県立西邑楽高等学校との連携事業

(1)高校生による夏休み宿題相談室

県立西邑楽高等学校の芸術科美術コースの生徒が、小中学生に絵やポスターなど夏休みの課題についてアドバイスをするワークショップを2日間に分けて開催した。参加者は、高校生からのアドバイスをもとに、熱心に制作に励んでいた。また、高校生たちは、小中学生との交流を通して、教えることの難しさを感じながらもふれあいを楽しみながら活動していた。

開催日 名称	会場	参加者数
7.31 高校生による夏休み宿題相談室	ワークショップ室	19
8.1 高校生による夏休み宿題相談室	ワークショップ室	18

(2)高校生による美術館ミニコンサート

県立西邑楽高等学校の吹奏楽部が、当館のエントランスホールを会場にミニコンサートを開催した。総勢30名の生徒たちが、来館者に馴染みのある曲を中心に30分間の演奏を2回行った。生徒たちは日頃の成果を発揮し、来館者を魅了した。

開催日 名称	会場	参加者数
8.10 高校生による美術館ミニコンサート	エントランスホール	85



高校生による夏休み宿題相談室



高校生による美術館ミニコンサート

3. 群馬県立女子大学との連携事業

県立女子大学奥西ゼミと連携して、夏休み期間中の子どもたちを主な対象としたワークショップを開催した。今年度で6回目となる今回は、企画展示「みつめる一見することの不思議と向き合う作家たち」に関連し、材料はミラー工作紙を使い、学生たちの丁寧な指導のもと、マスキングテープで飾りをつけるなどして自分だけのビー玉万華鏡をデザインした。

開催日 名称

8.18 キラキラ☆ビー玉万華鏡を作ろう！

会場

別館ワークショップ室

参加者数

116



群馬県立女子大学 奥西ゼミ ワークショップ「キラキラ☆ビー玉万華鏡を作ろう！」

4. 団体観覧者への解説

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	1	0	0	0	1	1	5	0	0	0	0	8
人数	0	15	0	0	0	24	25	112	0	0	0	0	176

H 地域に開かれた美術館づくり

館林美術館の施設と機能を活かして、地区小学生の健全育成、芸術創作活動の振興、美術鑑賞力の向上を図るとともに、地域に開かれた美術館づくりを推進するために、館林が生んだ木版画家である藤牧義夫にちなみ、館林市及び邑楽郡5町の各市町及び各市町教育委員会の協力を得て、「第11回 日本を代表する木版画家「藤牧義夫」記念館林邑楽地区小学生木版画展」を開催した。会場は講堂を使用し、参加小学校全27校を一週間6会期に分けて展示した。32日間の全会期中に、合計2,309人が観覧した。

会期	開催期間	参加校	入室者数
第1期	7.13-7.18	明和町立明和東小学校、明和町立明和西小学校、大泉町立南小学校、大泉町立北小学校	345
第2期	7.20-7.25	大泉町立西小学校、大泉町立東小学校、千代田町立西小学校、千代田町立東小学校	320
第3期	7.27-8.1	邑楽町立中野小学校、邑楽町立高島小学校、邑楽町立長柄小学校、邑楽町立中野東小学校	322
第4期	8.3-8.8	館林市立第一小学校、館林市立第二小学校、館林市立第三小学校、館林市立第四小学校	366
第5期	8.10-8.15	館林市立第五小学校、館林市立第六小学校、館林市立第七小学校、館林市立第八小学校、館林市立第九小学校	530
第6期	8.17-8.22	館林市立第十小学校、館林市立美園小学校、板倉町立東小学校、板倉町立西小学校、板倉町立南小学校、板倉町立北小学校	426



ポスター



展示会場

◎主要関連記事

(長文記事は末尾に*、県内媒体の情報のみの記事は省略)

教育普及事業・その他

[新聞等]

・上毛新聞

7.14

「小学生 伸び伸び版画 週替わり展示」(地域) *

7.15

「ビー玉万華鏡 ワークショップ「キラキラ☆ビー玉万華鏡を作ろう！」(先どりピックアップ!)

9.10

「美術館で叙情歌 オペラ名曲歌うぐんま特使・中嶋さん」*

11.16

「展覧会ポスタープレゼント」(先どりピックアップ!)

12.4

「「群馬の人間国宝」テーマに講演(館林)」*

・上毛新聞 シャトル

8.1

「私だけのカラフル版画 館林美術館で体験イベント」*

・前橋市地域新聞 厩橋(うまやばし)

8月号

「たてび☆キッズウォーク ゲーム感覚で作品鑑賞を楽しめる人気のイベント」* (ART& CULTURE 体験型イベント)

・タウンわたらせ

9.7

「館林美術館」* (美術館のカフェで過ごそう)

・読売新聞

10.18

「芸術の秋を満喫 ミュージアム特集」*

・群馬よみうり ビバ! アミーゴ

8.2

「オータムコンサート 中嶋彰子とヨーロッパの仲間たち」(Event Information)

10.25

「館長レクチャー 11月16日 県立館林美術館」(Event Information)

[定期刊行物]

・大人の休日倶楽部

5月号

「群馬県立館林美術館」* (知られざる アートタウン群馬)

・美術展&美術館びあ2019

4.30

「群馬県立館林美術館」(一度は行きたい 全国の美術館 105)

[単行書]

・かわいい美術に会いに行こう

7.31

「動物彫刻の名手! ポンポン作品に癒やされる 群馬県立館林美術館」*

I 刊行物

◎群馬県立館林美術館令和2年度事業案内

B4判変形4つ折り

令和2年3月発行

発行部数 20,000部



◎群馬県立館林美術館 施設概要

A4判16ページ

令和2年3月発行

発行部数 1,000部



◎群馬県立館林美術館「建築について」

B4判変形3つ折り

令和2年3月発行

発行部数 20,000部



◎群馬県立館林美術館「別館彫刻家のアトリエについて」

B4判変形3つ折り

令和2年3月発行

発行部数 20,000部



J ボランティア

年間登録制のボランティア、「たてび★サポーター」は、主にワークショップの制作サポート、「たてび☆キッズワーク」の受付サポート、館内の資料整理等を活動としている。その他、随時、活動に合わせた研修会を開催し、コミュニケーションを図りつつ、円滑な美術館の普及活動に貢献している。募集は通年でを行い、今年度の登録数は41名である。

期日	名称	人数
4.21、7.4、 10.19	研修会等	43
11.3	「おしゃべり鑑賞会」サポート	6
7.18、7.25、 8.8、8.15	「みんなのアトリエ」制作サポート	34
5.11、5.26、 6.9、11.2、 11.23、	「たてび☆びじゅつ部」制作サポート	46
4.27、5.25、 6.15、7.27、 8.3、9.7、 10.19、 11.16、12.7、	「たてび☆キッズワーク」サポート	23
11.23	「展覧会ポスタープレゼント」サポート	3
5.9、5.23、 6.6、6.20、 10.10、 10.24、11.7、 11.21、12.5、 1.23、2.6、 2.20	資料整理	42

K 友の会(群馬県立館林美術館友の会)

1. 運営会議

- (1)総会(6.22)
- (2)理事会(6.22)
- (3)運営委員会(5回 5.15、6.5、8.7、10.9、2.5)
事業の企画運営等具体的事項の協議

2. 美術館協力支援事業

- (1)ミュージアムショップの運営
展覧会商品、図録、オリジナル商品、書籍その他の展示販売を通して来館者へのサービス向上に努めた。
- (2)レセプションの開催(7.13)
美術館事業との共催

3. 会員対象事業

- (1)美術館情報の提供(5.24、7.5、10.4、1.14)
展覧会や美術講座等の広報資料や、友の会からのお知らせ等を随時会員宛に送付した。
- (2)コンサートの開催(9.6)
オータムコンサート演奏者:中嶋彰子(ソプラノ)、エリーゼ・シャレル(コロラトゥーラ・ソプラノ)、
タイール・ターズィ(バス)、斉藤雅昭(ピアノ) 参加者139名
- (3)ミュージアム・ツアーの開催(9.12)
美術館訪問を通じて美術鑑賞と会員相互の親睦を深めた。
9月12日 訪問先 岡田美術館 参加者44名
- (4)館長レクチャー(11.16)
「群馬の人間国宝」2 参加者25名
- (5)アンケート事業
友の会の事業運営に役立てるため、DMにてアンケート用紙を配布し、年間通して意見・要望を募った。

A 美術作品

1. 作品収蔵状況 令和2年3月31日現在

作家区分 収蔵方法	県内作家		国内作家			外国作家			小計	総計
	購入	寄贈	購入	寄贈	小計	購入	寄贈			
部門										
日本画	4	9	13	1	1	2	0	0	0	15
油彩その他	7	2	9	18	9	27	6	1	7	43
水彩・素描	10	6	16	3	0	3	8	6	14	33
版画	22	0	22	289	253	542	52	0	52	616
写真・映像	0	0	0	60	8	68	12	0	12	80
彫刻	5	8	13	4	5	9	125	1	126	148
染織・工芸	5	3	8	3	0	3	4	1	5	16
計	53	28	81	378	276	654	207	9	216	951

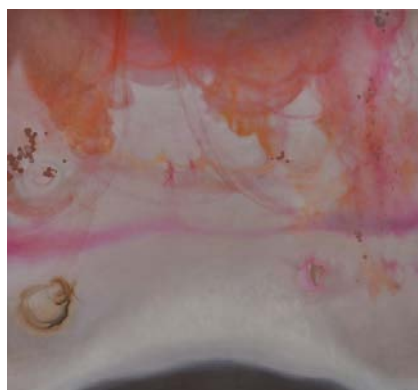
2. 平成31年・令和元年度 収蔵作品

令和元年度においては、油彩その他2点(寄贈2点)を新たに収蔵した。
以下、区分ごとに50音順に配列している。各作品データは、以下の順に記す。

- ・作者名(生没年)
- ・作品名
- ・制作年(日本人作家の場合は元号も付す)
- ・技法・材質(・形状)
- ・寸法(平面作品は縦×横、立体作品は高さ×幅×奥行、単位はcm)
- ・サイン、年記、その他の記載事項
- ・初発表展覧会および受賞記録
- ・受入種別
- ・受入番号

<油彩その他>

水村綾子(1969～)
MIZUMURA Ayako
scale
2013(平成25)年
油彩・カンヴァス
162.0×162.0
裏面の棧に画題とサイン及び年記
「水村綾子展-scale-」
(櫻木画廊、2013年)
作者寄贈
950



水村綾子(1969～)
MIZUMURA Ayako
phrase
2019(平成元)年
油彩・カンヴァス
162.0×194.0
「みつめるー見ることの不思議と向き合う作家たちー」
(群馬県立館林美術館、2019年)
作者寄贈
951



3. 平成31・令和元年度 寄託作品

作者名	作品名(* 新規寄託)	制作年	技法・材質	寸法(cm)		
				縦×横または高さ×幅×奥行		
伊藤博敏	ZIP STONE Metal Age	2013	自然石、ファスナー、ステンレス球	12.0	× 13.0	× 7.5
大坂秩加	あなたに縁起のいい門出を	2010	リトグラフ・紙	25.0	× 16.0	
大坂秩加	ちょっと高い合コン	2011	アクリル、水彩、色鉛筆、チョーク・麻布	70.0	× 50.0	
大坂秩加	カップヌードルをすする	2012	アクリル、水彩、色鉛筆、白亜地・パネル	120.0	× 90.0	
上根拓馬	27ガーディアンズ 大弁功德天	2010	エポキシ樹脂、レジンキャスト	15.0	× 15.0	× 30.0
上根拓馬	28ガーディアンズ 那羅延堅固	2010	エポキシ樹脂、レジンキャスト	15.0	× 15.0	× 30.0
上根拓馬	28ガーディアンズ 那羅延堅固	2011	エポキシ樹脂、レジンキャスト	25.0	× 25.0	× 55.0
上根拓馬	28ガーディアンズ 密遮金剛力士	2011	エポキシ樹脂、レジンキャスト	25.0	× 25.0	× 55.0
上根拓馬	12ガーディアンズ no.2 伐折羅大将	2011	エポキシ樹脂、レジンキャスト、ミクストメディア	15.0	× 15.0	× 30.0
上根拓馬	12ガーディアンズ the Devas no.7 毘沙門天	2013	エポキシ樹脂、レジンキャスト、ミクストメディア	25.0	× 25.0	× 43.0
白石綾子	room of womb	2010	アクリル、油彩・パネル	120.0	× 120.0	
樽谷タカシ	妖怪力車	2011	アクリル、金箔・木製パネル	33.3	× 53.1	
中井章人	引きずりの観測	2010	ミクストメディア	11.0	× 11.0	× 12.5
にしはらあずさ	グレタ	2010	油彩・コットンクロスパネル	41.0	× 31.8	
にしはらあずさ	あの子と逸れた	2011	油彩・コットンクロスパネル	162.1	× 112.1	
深沢幸雄	骨疾D	1955	エッチング、アクアチント、ドライポイント・紙	24.2	× 18.1	
深沢幸雄	母子像	1956	メゾチント・紙	23.3	× 36.7	
深沢幸雄	橋	1958	エッチング、ディープエッチング、アクアチント、メゾチント・紙	36.5	× 31.8	
深沢幸雄	新しい夜	1961	エッチング、ディープエッチング、アクアチント、シュガー・アクアチント・紙	36.5	× 34.0	
深沢幸雄	假面	1961	エッチング、ディープエッチング、アクアチント、シュガー・アクアチント・紙	29.9	× 19.2	
深沢幸雄	残像	1961	エッチング、ディープエッチング、ソフトグラウンドエッチング、シュガーアクアチント、ドライポイント・紙	30.0	× 36.5	
深沢幸雄	望郷	1962	エッチング、ディープエッチング、アクアチント、シュガーアクアチント・紙	23.2	× 13.4	
深沢幸雄	憂愁の裸像	1992	エッチング、ディープエッチング、アクアチント、メゾチント・紙	36.1	× 69.2	
町田久美	招き猫	不詳	ミクストメディア	7.5	× 8.5	× 14.0
町田久美	らんちゅうタクシー	1998	スクリーンプリント・紙	87.0	× 42.7	
町田久美	“Das rote Kostüm”―三浦哲郎「赤い衣装」ドイツ語版表紙―	2010	青墨、岩絵具、顔料・雲肌麻紙	22.8	× 16.5	
町田久美	オモチャ	2011	グワッシュ、デジタルプリント・紙	29.4	× 39.0	
町田久美	a year	2012	岩絵具、リキテックス、鉛筆・カンヴァス	10.0	× 10.0	
町田久美	鞭	2012	鉛筆、色鉛筆、オイルパステル・紙	30.0	× 21.0	

作者名	作品名(* 新規寄託)	制作年	技法・材質	寸法(cm)		
				縦	横または高さ	幅×奥行
町田久美	前夜	2013	エッチング、リトグラフ、 金箔、手彩色・紙	22.7	×	19.2
町田久美	前夜	2014	エッチング、リトグラフ、 金箔、手彩色・紙	22.7	×	19.4
三宅砂織	ベッドルーム2	2008	ゼラチン・シルバー・プ リント・紙	70.0	×	70.0
山口長男	人(Ⅲ)	1980	リトグラフ・紙	58.0	×	43.0
山田純嗣	10-11 FLOWERS	2010	ポリコートパネル、印画 紙、樹脂、パールペイン ト、インタリオ・オン・フォ ト	65.0	×	65.0
山中現	流れ星	1981	木版・紙	48.8	×	36.5
山中現	後に大きく	1982	木版・紙	15.5	×	22.6
山中現	ニョロニョロ	1982	木版・紙	15.4	×	22.6
山中現	まど	1982	木版・紙	46.0	×	32.2
山中現	7	1983	木版・紙	24.8	×	25.8
山中現	二つの雲	1984	木版・紙	20.3	×	15.4
山中現	夜話	1986	木版・紙	52.4	×	40.0
山中現	夜にⅡ	1986	木版・紙	27.0	×	19.2
山中現	星夜Ⅳ	1987	木版・紙	69.2	×	48.3
山中現	星の道	1989	木版・紙	42.5	×	31.6
山中現	二つの時	1993	木版・紙	48.4	×	66.5
山中現	カタチノアツマルバシヨ	1994	木版・紙	24.5	×	35.0
山中現	4つの場所	1998	油彩・カンヴァス	45.5	×	37.8
山中現	雲の記号	2000	木版・紙	49.1	×	62.9
山中現	みどりのかたち	2000	木版・紙	62.6	×	49.0
山中現	陰の刻	2005	木版・紙	51.8	×	45.0
山中現	冬の日	2006	ガラス絵	14.5	×	9.8
山中現	ひとつのみどり	2006	ガラス絵	14.5	×	9.8
山中現	ひとつの茶色	2006	ガラス絵	9.8	×	14.5
山中現	時のかたち	2007	油彩・カンヴァス	40.8	×	31.8
横尾忠則	予兆の刻1	1989	シルクスクリーン・紙	62.5	×	70.0
岸浪百草居	画卷(魚など)	未詳	紙本著色・卷子	24.0	×	625.9
津田青楓	山高水長画卷	1937	紙本著色・卷子	30.2	×	538.2
森田恒友	漁村図	未詳	紙本墨画・軸	94.5	×	90.0
太田三郎	200 Year After SHARAKU, from 1 June 1994 to 28 February 1995 *	1996	切手にコピー、20シート	各35.2	×	24.5
清水征博	image of Mr.S-A *	1996	陶	103.0	×	45.0 × 45.0
清水征博	image of Mr.S-B *	1996	陶	38.0	×	109.0 × 45.0
深井隆	記憶—写楽 *	1996	木、紙、顔料	220.0	×	43.0 × 37.0
藤本由紀夫	SHARAKU BOX(Mizuemon) *	1996	木、オルゴールユニット	40.0	×	26.0 × 20.0
藤本由紀夫	SHARAKU BOX(Mikinoshin) *	1996	木、オルゴールユニット	40.0	×	26.0 × 20.0
藤本由紀夫	SHARAKU BOX(Mizuemon) *	1996	木、オルゴールユニット	40.0	×	26.0 × 20.0
藤牧義夫	関連資料全21点					
清宮質文	むかしのはなし	1958	木版・紙	8.1	×	16.6
清宮質文	葦	1958	木版・紙	21.6	×	18.7
清宮質文	古い日	1960	木版・紙	17.2	×	14.4
清宮質文	幼きもの	1963	木版・紙	24.0	×	21.4
清宮質文	蝶	1963	木版・紙	24.7	×	22.2
清宮質文	眠り	1966	木版・紙	19.8	×	27.8
清宮質文	夏の終り	1967	木版・紙	10.4	×	22.3
清宮質文	九月の海辺	1970	木版・紙	13.4	×	23.4
清宮質文	歳月	1970	木版・紙	18.3	×	25.8
清宮質文	北辺の小屋	1971	ガラス絵	15.6	×	21.4
清宮質文	暗い夕日(版画集『暗い夕日』1)	1972	木版・紙	21.5	×	19.3
清宮質文	冬(版画集『暗い夕日』2)	1972	木版・紙	23.2	×	22.0
清宮質文	トンネルの出口 (版画集『暗い夕日』3)	1972	木版・紙	23.5	×	20.0
清宮質文	虜囚の窓(版画集『暗い夕日』4)	1972	木版・紙	24.6	×	20.0
清宮質文	夕方の静物 (版画集『暗い夕日』5)	1972	木版・紙	23.3	×	22.0

作者名	作品名(* 新規寄託)	制作年	技法・材質	寸法(cm)		
				縦×横または高さ×幅×奥行		
清宮質文	窓のカンテラ (版画集『暗い夕日』6)	1972	木版・紙	24.4	×	14.3
清宮質文	入日(版画集『暗い夕日』7)	1972	木版・紙	16.2	×	25.8
清宮質文	町外れ(版画集『暗い夕日』8)	1972	木版・紙	13.8	×	22.4
清宮質文	夕日の静物 (版画集『暗い夕日』9)	1972	木版・紙	13.9	×	22.3
清宮質文	壇の中の魚 (版画集『暗い夕日』10)	1972	木版・紙	20.2	×	22.6
清宮質文	窓のランタン	1972	木版・紙	24.4	×	14.2
清宮質文	深夜の蠟燭	1974	木版・紙	17.8	×	15.1
清宮質文	星占(去りゆく凶星)	1975	木版・紙	15.2	×	17.9
清宮質文	秋の夕日	1976	木版・紙	16.0	×	14.3
清宮質文	作品	1981	水彩・紙	9.8	×	16.1
清宮質文	われむかしの日いにしへの年をおもえり	1982	木版・紙	15.1	×	13.0
清宮質文	黒夜の鳥	1982	木版・紙	13.9	×	17.5
清宮質文	夢の中へ	1983	木版・紙	15.7	×	6.9
清宮質文	失題	1983	モノタイプ・紙	20.8	×	16.2
清宮質文	失題	1983	モノタイプ・紙	19.5	×	11.7
清宮質文	失題	1983	モノタイプ・紙	21.2	×	16.2
清宮質文	秋の午後	1985	木版・紙	11.0	×	23.4
清宮質文	なんじの革囊にわが涙を	1985	木版・紙	17.8	×	16.8
清宮質文	夕日のとり	1985	木版・紙	7.9	×	16.0
清宮質文	晩夏	1985	木版・紙	6.8	×	7.0
清宮質文	月と運河(試作)	1987	木版・紙	16.3	×	16.5
清宮質文	未完(絶筆)	1991	水彩・紙	20.8	×	24.5
清宮質文	未完(絶筆)	1991	水彩・紙	22.3	×	30.0
清宮質文	冬の夕(絶筆)	1991	ガラス絵	12.3	×	16.2
清宮質文	未完(絶筆)	1991	ガラス絵	12.4	×	16.5
中平四郎	讀賣	1924	木彫	60.0	×	34.0 × 25.0
長重之	視床～青	1995	木、布、アクリル	100.0	×	162.0 × 7.0
長重之	視床	2010	水彩、コラージュ・紙	92.5	×	116.0
山口啓介	花の心臓 / 炭素原子モデル	2003	顔料、樹脂、自家製樹脂、アクリル・カンヴァス	270.0	×	181.0
山口啓介	花の心臓 / 蕊柱	2003	油彩・カンヴァス	270.0	×	181.0
大森暁生	Swan in the frame (Type-A)	2006	檜、漆、彩色、ステンレス、アガチス、銅	70.0	×	130.0 × 67.0
スタン・アンダソン	紙漉き作品 1	不詳	樹皮、木、イノシシの骨	130.0	×	146.0 × 6.0
スタン・アンダソン	紙漉き作品 4	不詳	樹皮、木	110.0	×	147.0 × 15.0
スタン・アンダソン	紙漉き作品 5	不詳	樹皮、木	135.0	×	65.0 × 7.0
スタン・アンダソン	犬の散歩道－暮坂高原古道再生プロジェクト(部分)	2015	樹皮	180.0	×	290.0 × 25.0
スタン・アンダソン	紙漉き作品(六合の地図)	不詳	樹皮			
スタン・アンダソン	立体作品	不詳	樹皮、木、動物の骨	186.0	×	136.0 × 100.0
スタン・アンダソン	動物の絵柄の紙漉き作品 14点	不詳	樹皮、貝殻	直径約30		
スタン・アンダソン	ドローイング 1	不詳	パステル・紙	54.0	×	40.0
スタン・アンダソン	ドローイング 2	不詳	パステル・紙	54.0	×	40.0
スタン・アンダソン	ドローイング 3	不詳	パステル・紙	79.0	×	109.0
スタン・アンダソン	ドローイング 4	不詳	墨・紙	79.0	×	109.0
スタン・アンダソン	ドローイング(11点)	不詳	鉛筆・紙	30.0	×	23.0
スタン・アンダソン	書籍(21冊)					
掛井五郎	人間の問題研究III四つの足	1985	ブロンズ	100.0	×	96.0 × 30.0
岡本健彦	風神・雷神	1993	油彩、鉛、ステンレスチール、カンヴァス、合板	183.0	×	200.0 × 398.0
三輪途道	YUUKO	1996-2004	檜、漆、膠、白土、顔料	153.0	×	48.0 × 25.0
三輪途道	野辺の王様	1998	檜、漆、膠、白土、顔料	125.0	×	32.0 × 40.0
三輪途道	温度-H.MIWA-	1999	檜、漆、膠、白土、顔料	99.0	×	57.0 × 37.0
三輪途道	縄文からの道	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	12.0	×	25.0 × 16.0
三輪途道	TOKYO-2000.1.12.Age60-	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	102.0	×	50.0 × 28.0
三輪途道	猿を待ってた日	2000	檜、漆、膠、白土、顔料	23.0	×	16.5 × 23.0
三輪途道	下仁田ーおじい	2003	檜、漆、膠、顔料	79.0	×	59.0 × 64.0
三輪途道	下仁田ーおばあ	2003	檜、漆、膠、顔料	83.0	×	50.0 × 56.0

作者名	作品名 (* 新規寄託)	制作年	技法・材質	寸法(cm)		
				縦×横または高さ×幅×奥行		
三輪途道	おじいの宝Ⅱ(金歯の位置違い)	2003	檜、漆、金箔	3.0	× 7.5	× 5.0
三輪途道	おじいの抜け殻	2003	檜、漆、膠、顔料	14.0	× 44.0	× 38.0
三輪途道	猫の抜け道	2005	檜、漆、膠、顔料	25.0	× 68.0	× 14.0
三輪途道	発電所のなめくじ	2005	檜、漆、膠、白土、顔料	4.0	× 6.0	× 14.0
		2005	檜、漆、膠、白土、顔料	5.0	× 8.0	× 20.0
		2005	檜、漆、膠、白土、顔料	6.0	× 9.0	× 28.0
		2005	檜、漆、膠、白土、顔料	13.0	× 10.0	× 18.0
		2005	檜、漆、膠、白土、顔料	13.0	× 10.0	× 18.0
		2007	檜、漆、膠、顔料	175.0	× 42.0	× 42.0
三輪途道	父子像	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	90.0	× 58.0	× 71.0
三輪途道	乳母と私Ⅱ	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	159.0	× 99.0	× 8.0
三輪途道	父子像Ⅱ	2007	檜、漆、膠、白土、顔料	24.4	× 18.8	
アルブレヒト・デュー	書斎の聖ヒエロニムス	1514	エングレーヴィング・紙	24.4	× 18.8	
アンディ・デンツラー	Sant Francisc Ⅲ *	2018	油彩・カンヴァス	140.0	× 120.0	
アンディ・デンツラー	At a Stranger's table *	2018	油彩・カンヴァス	80.0	× 70.0	
アンディ・デンツラー	Woman Lying in a Corner *	2018	油彩・カンヴァス	80.0	× 70.0	
会田誠	トラウマンボーイ02	2007	パネル、色鉛筆、水彩 絵具、油性マーカー・ 紙	36.5	× 51.5	
会田誠&加藤愛	愛ちゃん盆栽(ほおずき)小料理屋にて	2008	ラムダプリント	86.8	× 125.0	
大竹利絵子	へび	2006	木	31.0	× 21.5	× 17.0
加藤泉	無題	2000	油彩・カンヴァス	40.7	× 24.0	
加藤泉	無題	2009	油彩・カンヴァス	33.3	× 24.0	
加藤泉	Untitled	2017	ソフトビニール、金属	60.0	× 17.0	× 18.0
川島秀明	stare	2008	アクリル・カンヴァス	50.0	× 72.7	
カンノサカン	無題	2007	ウレタン、アクリル・パネ ルに貼られたカンヴァス	30.0	× 30.0	
阪本トクロウ	バード	2007		40.6	× 40.6	
田中敦子	作品 *	2002	合成エナメル塗料・カン ヴァス	60.2	× 50.1	
田中敦子	Work	2004	パステル・紙	33.2	× 24.3	
Chim ↑ Pom	イケてる人達みたい02	2008	C-Print、DVD	31.0	× 31.0	
奈良美智	Untitled	1990	アクリル・紙	49.3	× 34.2	
西尾康之	stand up	1997	陰刻鑄造、ファイバーブ ラスター	77.5	× 36.0	× 12.0
日野之彦	二人は走る	2010	油彩・カンヴァス	259.1	× 193.9	
日野之彦	見つめ合い	2011	油彩・カンヴァス	91.0	× 91.0	
日野之彦	涼しい風 *	2018	色鉛筆、紙	43.3	× 34.2	
日野之彦	曇り空 *	2018	色鉛筆、紙	50.4	× 66.7	
日野之彦	パーマ	2007	鉛筆・ケント紙、額装	103.5	× 72.5	
日野之彦	縞の服	2008	鉛筆・紙、額装	101.6	× 50.4	
町田久美	ひとり	2003	墨・雲肌麻紙	130.0	× 97.0	
松井冬子	同世代のエジプト人	2007	ドローイング、額装	43.7	× 36.7	
松井冬子	トメス4世	2007	ドローイング、額装	36.2	× 44.1	
ロッカクアヤコ	Untitled	2014	アクリル・段ボール	63.0	× 63.0	
ロッカクアヤコ	Untitled	2016	アクリル・段ボール	53.0	× 40.0	
ロッカクアヤコ	Untitled	2017	アクリル・カンヴァス	80.0	× 80.0	
ロッカクアヤコ	Untitled	2017	アクリル・カンヴァス	140.0	× 100.0	
ロッカクアヤコ	Untitled	2018	アクリル・スーツケース	47.0	× 71.0	× 18.0
ロッカクアヤコ	Untitled *	2019	アクリル・カンヴァス	100.0	× 100.0	
西村盛雄	甘露の雨 マナ9	2002	木	37.0	× 220.0	× 220.0
勅使河原蒼風	群れ	1953	鉄	103.0	× 184.0	× 57.0
勅使河原蒼風	ビーナス	1957	木	68.0	× 65.0	× 54.0
勅使河原蒼風	クビ	1962	木	129.5	× 62.5	× 30.0
勅使河原蒼風	わかれ	1963	鉄	120.0	× 33.0	× 32.5
勅使河原蒼風	クサナギ	1967	銅	252.5	× 64.5	× 50.0
勅使河原蒼風	ミコ	1967	銅	96.0	× 49.0	× 25.0
勅使河原蒼風	題不詳	不詳	銅	44.0	× 53.0	× 48.0
坂本幸重	蛙	2003	紙本着色・額装	60.0	× 100.0	
林茂樹	00-XVIII	2017	磁器	40.0	× 80.0	× 38.0

作者名	作品名(* 新規寄託)	制作年	技法・材質	寸法(cm)		
				縦×横または高さ×幅×奥行		
下川勝	星あかり	1974	アクリル、水彩、グワッシュ、金泥、銀泥・紙	10.0	× 10.0	
下川勝	水の神話	1975	アクリル、水彩、グワッシュ、金泥、銀泥・紙	10.0	× 10.0	
長重之	笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル	242.0	× 170.0	× 11.5
長重之	笑い続ける二つの州の間で	1990	断熱材、布、木、アクリル	200.0	× 146.0	× 11.5
ボスコ・ソディ	Untitled	2016	ミクストメディア・カンヴァス	200.0	× 200.0	

4. 館蔵作品貸出状況

4-1. 館蔵作品貸出状況

作者名	作品名(* 寄託作品)	貸出先	展覧会名	会場・会期
清宮質文	むかしのはなし* 葦* 古い日* 幼きもの* 蝶* 眠り* 夏の終り* 九月の海辺* 歳月* 北辺の小屋* 暗い夕日(版画集『暗い夕日』1)* 冬(版画集『暗い夕日』2)* トンネルの出口(版画集『暗い夕日』3)* 虜囚の窓(版画集『暗い夕日』4)* 夕方の静物(版画集『暗い夕日』5)* 窓のカンテラ(版画集『暗い夕日』6)* 入日(版画集『暗い夕日』7)* 町外れ(版画集『暗い夕日』8)* 夕日の静物(版画集『暗い夕日』9)* 瓶の中の魚(版画集『暗い夕日』10)* 窓のランタン* 深夜の蠟燭* 星占(去りゆく凶星)* 秋の夕日* 作品* われむかしの日いいしえの年をおもえり* 黒夜の鳥* 夢の中へ* 秋の午後* なんじの革囊にわが涙を* 夕日のとり* 晩夏* 月と運河(試作)* 無題(未完、絶筆水彩)* 無題(未完、絶筆水彩)* 冬の夕(絶筆)* 未完(絶筆)* 失題* 失題* 失題*	鹿沼市立川上澄生美術館	清宮質文と川上澄生	鹿沼市立川上澄生美術館 10.5-11.24
清宮質文	葦* むかしのはなし* 古い日* 幼きもの* 蝶* 眠り* 夏の終り* 九月の海辺*	アサヒビール大山崎山荘美術館	清宮質文 一限りなく深い澄んだ空気	アサヒビール大山崎山荘美術館 12.14-2.3.8 (新型コロナウイルス感染予防のため2.2より休館)

作者名	作品名(* 寄託作品)	貸出先	展覧会名	会場・会期
	歳月*			
	北辺の小屋*			
	暗い夕日(版画集『暗い夕日』1)*			
	冬(版画集『暗い夕日』2)*			
	トンネルの出口(版画集『暗い夕日』3)*			
	虜囚の窓(版画集『暗い夕日』4)*			
	夕方の静物(版画集『暗い夕日』5)*			
	窓のカンテラ(版画集『暗い夕日』6)*			
	入日(版画集『暗い夕日』7)*			
	町外れ(版画集『暗い夕日』8)*			
	夕日の静物(版画集『暗い夕日』9)*			
	瓶の中の魚(版画集『暗い夕日』10)*			
	窓のランタン*			
	深夜の蠟燭*			
	星占(去りゆく凶星)*			
	秋の夕日*			
	作品*			
	われむかしの日いにしえの年をおもえり*			
	黒夜の鳥*			
	夢の中へ*			
	秋の午後*			
	なんじの革囊にわが涙を*			
	晩夏*			
	夕日のとり*			
	月と運河(試作)*			
	未完(絶筆)*			
	未完(絶筆)*			
	冬の夕(絶筆)*			
	未完(絶筆)*			
	失題*			
	失題*			
	失題*			
エドワード・バーン＝ジョーンズ	『フラワー・ブック』 天国のバラ ヴィーナスの鏡 もつれた愛 金色のにわか雨 ヘレンの涙 世界の驚異 偽りのマーキュリー 昼と夜	美術館「えき」KYOTO 群馬県立近代美術館 岡崎市美術博物館 高知県立美術館	西洋近代美術にみる神話の世界	美術館「えき」KYOTO 10.18-11.17 群馬県立近代美術館 2.8-3.22 (新型コロナウイルス感染予防のため3.1より休館) 岡崎市美術博物館 令和2.4.4-5.17 (新型コロナウイルス感染予防のため4.11より休館)
ラウル・デュフィ	アポリネール『動物詩集あるいはオルフェウスのお供たち』 オルフェウス 亀 馬 蛇 猫 ライオン ラクダ ハツカネズミ オルフェウス オルフェウス イルカ			高知県立美術館 令和2.5.30-7.12

作者名	作品名(* 寄託作品)	貸出先	展覧会名	会場・会期
	鯉 オルフェウス 人魚たち 白鳩 クジャク アイビス 牡牛			
日高理恵子	空との距離Ⅲ	川崎市岡本太郎美術館	岡本太郎美術館20周年記念展 (後期/芸術と社会・現代の作家たち)	川崎市岡本太郎美術館 10.26-1.13
森田恒友	漁村図 *	福島県立美術館 埼玉県立近代美術館	森田恒友展 自然と共に生きて行かう	福島県立美術館 11.23-1.19 埼玉県立近代美術館 2.1-3.22 (新型コロナウイルス感染 予防のため2.29より休館)
津田青楓	山高水長画卷 *	練馬区立美術館	生誕140年記念 背く画家 津田青楓とあゆむ明治大正昭和	練馬区立美術館 2.21-4.12 (新型コロナウイルス感染 予防のため臨時休館あり)

5. 保存・修復

作者名	作品名	技法・材質	種別	処置内容
バリー・フラナガン	鐘の上の野兎	ブロンズ	彫刻	ブロンズ表面コーティング

所蔵資料

B 図書資料その他

平成31・令和元年度 収蔵図書

種類区分	一般図書	定期刊行物	カタログ	年報目録	研究報告	その他	計
購入	145	85	38	0	4	0	272
寄贈	120	87	526	126	119	0	978
計	265	172	564	126	123	0	1,250

職員名簿

(令和2年3月13日現在)

群馬県立館林美術館作品収集委員

氏名	職名
水沢勉	神奈川県立近代美術館館長
横山勝彦	呉市立美術館館長
杉村浩哉	栃木県立美術館主任研究員
五十嵐卓	東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館学芸課長

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

館長	佐々木正直
副館長	竹沢徹

<教育普及係>

教育普及係長	山崎雅史
主幹(事)	平野由紀夫
主幹(事)	堀越広基
主幹(学芸員)	熊谷ゆう子
主幹(事)	橋本美紀
教育普及員	齋藤久美子
	羽鳥あゆみ
	竹渕典子
	松本梨江
	長井みずき

<学芸係>

学芸係長	神尾玲子
主幹(学芸員)	松下和美
主任(学芸員)	伊藤香織
主任(学芸員)	野澤広紀
資料整理員	伊羅子典代